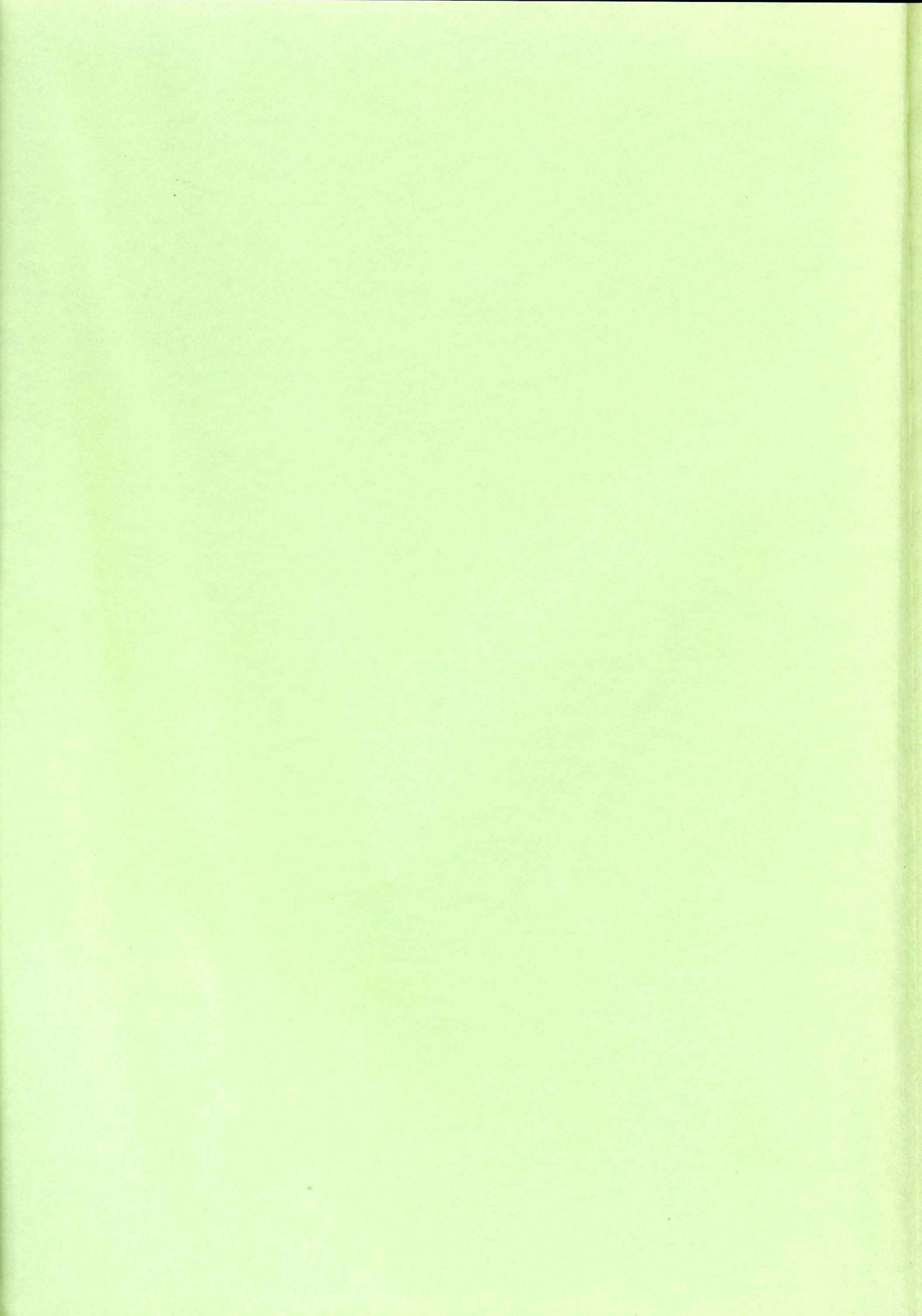


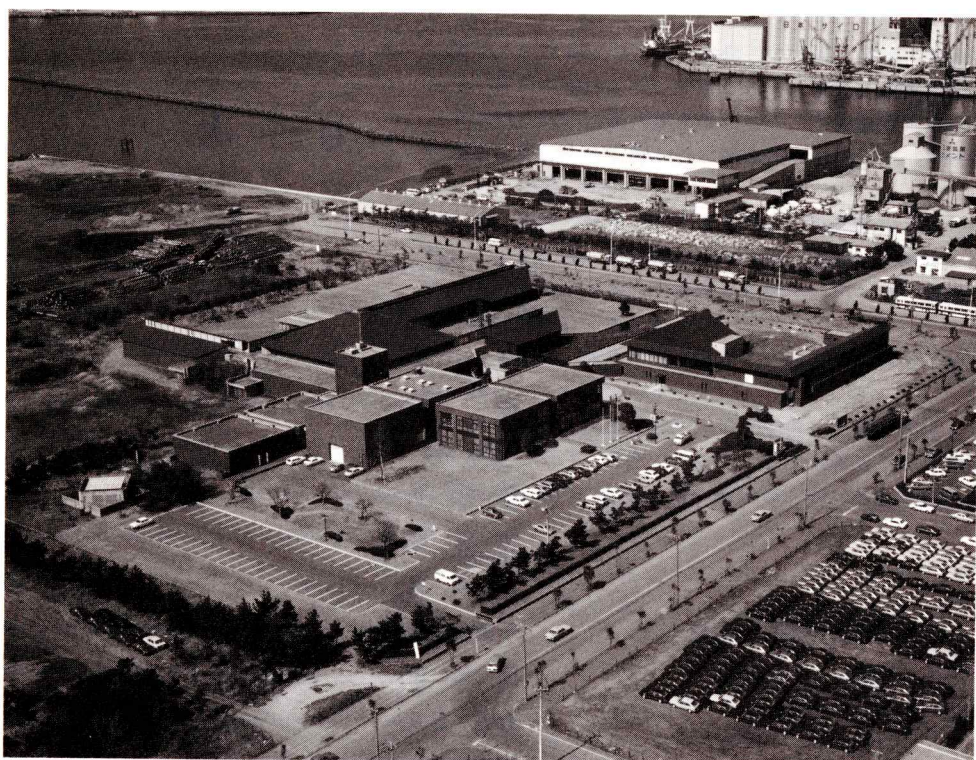
みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和58年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART





千葉県立美術館全景

目 次

ご あ い さ つ	1
沿 革	2
管 理 運 営	3
機 構	4
施 設	9
事 業 報 告	13
常 設 展	14
特 別 展	17
企 画 展	22
千葉県芸術祭	26
団 体 展	28
教育・普及	34
昭和58年度事業一覧	44
利 用 状 況	46
日 誌 抄	47
関 係 法 例 等	48
昭和59年度展覧会事業計画	50

ごあいさつ

このたび、昭和58年度千葉県立美術館の経営実績を主体にした年報を刊行し、関係者の皆様にお届けすることになりました。

本館は、昭和49年に開館してから、「みる・かたる・つくる」美術館を目指して、美の大衆化に努めてまいりました。

早いもので、こうした歩みも10年を迎えるに至りました。

そこで、「みる」活動として、本館が経営の重点のひとつに揚げて、調査、研究をすすめております。千葉県佐倉市で成人した日本近代洋画の先駆者、浅井忠に焦点をあて、浅井忠記念賞を設定し、特別展として「浅井忠記念賞展」と、「日本の洋画とフランス」展を開催しました。企画展としては、「浅見喜舟展」をはじめ、「収蔵作品展」、「移動美術館」等を開催してまいりました。

また、「かたる・つくる」活動としては、各種の実技講座を通して、作品の制作の喜びや楽しみを、更に、美術の見方、考え方を深めるための美術館夏季大学や、美術を語る会など、多くの皆様に親しまれる開かれた美術館を目指して、継続的に実施してまいりました。

一方、資料の収集につきましては、地域に根ざした美術館を基本としながら、近代美術史の宝庫を目指し、調査、研究と相まって、千葉県美術品取得基金条例を活用して、収蔵作品の充実を図ってまいりました。

このように、地域の美術館としての活動も軌道に乗り、充実期を迎えようとしております。

今後も、更に反省を加え、より充実した美の広場としての活動を推進していく所存ですので、関係諸機関及び各団体、並びに県民の皆様の、なお一層の御指導と御支援をお願いする次第であります。

昭和59年4月

千葉県立美術館長

平 野 馨

沿革

概要

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月第2期工事の管理棟が完成した。

なお、千葉県の第5次総合5ヶ年計画により、第3期工事として、県民アトリエの建設に昭和54年3月27日着工、同55年2月29日竣工し、ここに当初建設計画は完了した。

運営方針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想なる

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたる

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施計画完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行なう

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月15日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月15日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄付によって、正面玄関に植栽を行なう

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示をはじめる

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、101台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月27日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟建築工事竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立した

昭和58年12月31日 屋外展示場の園路及び彫像台座工事の一部が完成する

管 理 運 営

昭和49年10月に開館し、一般に公開して以来、9年余を経過した。この間、館の運営方針に基づき、美の広場として、“みる・かたる・つくる”活動を積極的に展開し、県民のための明るく愛され親しまれる、地域の美術館として重要な役割を果たしてきた。

また、県教育委員会は、芸術文化の振興を更に進めるため、今年度も昨年度に引き続き、教育施策の四本柱の一つに「心豊かなうおいのある生活と香り高い県民文化の創造をめざして」としている。

このようにして、県民の美術館利用も年々増大の傾向にあるので、普及活動を一層高め、利用と活用に努めたい。

施設の面では、昭和55年3月、第3期工事で完成した県民アトリエ棟を最後に一応の整備を終ったが、昭和58年11月12日、開館10周年と県展35周年を記念した記念碑を建立したほか、同年12月31日には、屋外展示場の園路及び彫像台座の一部が完成する等屋外整備についても充実を図った。

また、展示棟内に県民の待望久しかった美術普及コーナーを昭和58年7月29日開設し、美術館利用者の便宜に供している。

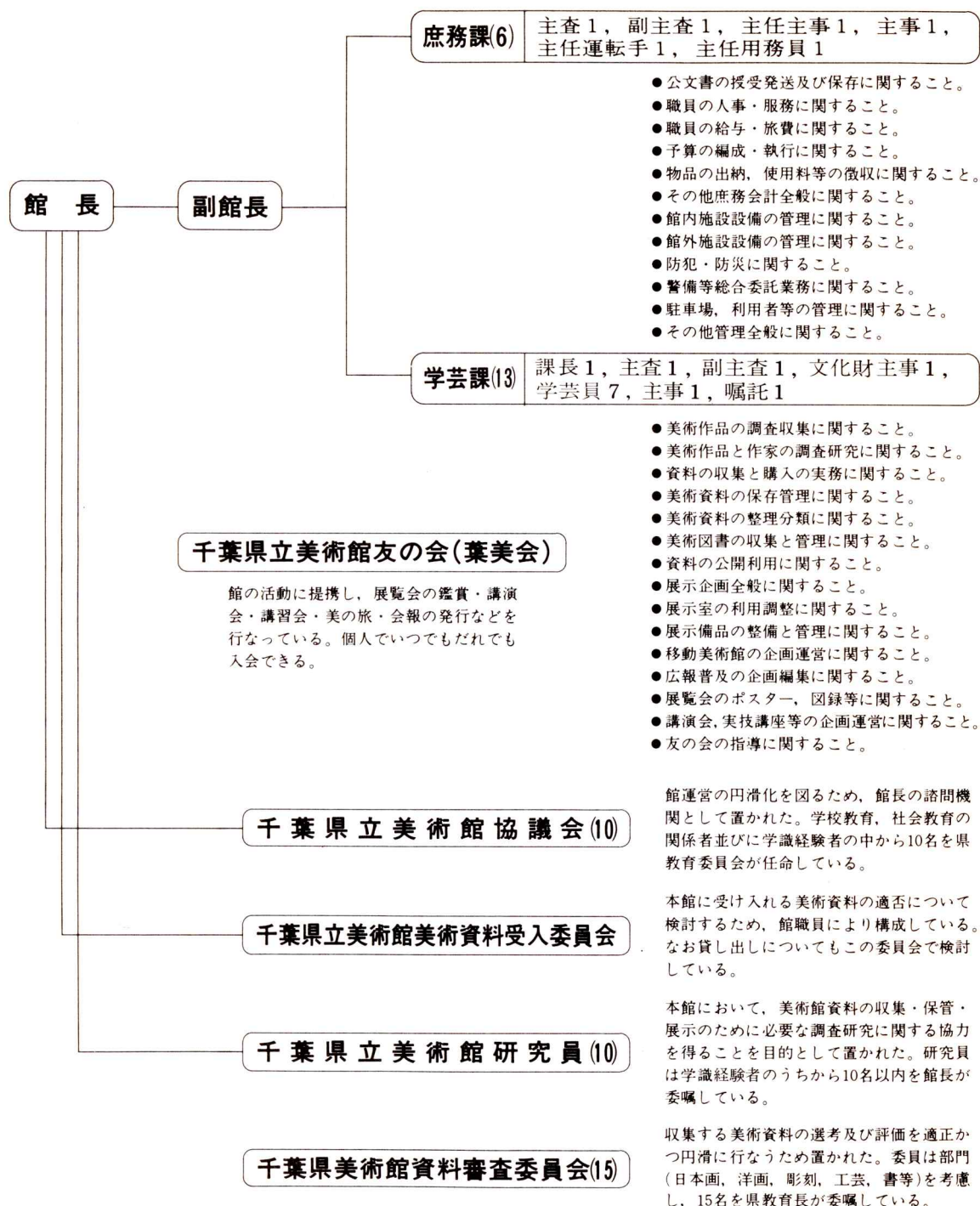
県民アトリエ棟では、つくる喜びと楽しみを味わえる創造の拠点として各種の実技講座等の事業を展開するほか、夏季大学、美術を語る会等の講演会を実施し、県民にうおいのある生活を与える場として活動が続けられている。

一方、資料収集についても近代、現代の美術資料を中心とする美術館として、その収集にあたり特に地域美術館として、千葉県ゆかりの作家の作品及び千葉県にゆかりのある作品を中心に、順調に充実が図られている。

このようにして、今後更に調査研究を重ね県民の要望を満たすための努力をし、美の広場づくりの確立を図っていきたい。

機 構

組織および事務分掌 (59.3.31現在)



職 員

館 長 高 橋 在 久
副 館 長 平 野 馨

庶 務 課

主 査 内 山 昭 氏
副 主 査 忍 足 正 雄
主 任 主 事 菅 井 富 美 子
主 事 一 杉 徹
主 任 運 転 手 篠 原 恒 雄
主 任 用 務 員 長 島 則 子

学 芸 課

主査兼課長 高 橋 瑛
主 査 久 保 木 良
副 主 査 加 曾 利 和 夫
文化財主事 鈴 木 喜 久 夫
学 芸 員 小 野 禮 子
" 米 田 耕 司
" 大 久 保 守 司
" 藤 川 正 司
" 前 川 公 秀
主 事 武 内 喜 美 子
学 芸 員 山 内 章 子
(58.12.31退職)
" 小 泉 幸 代
非常勤嘱託 足 立 堯

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職
浅 見 喜 舟	千葉県美術会会長
石 母 田 権 兵 衛	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
遠 藤 健 郎	画 家
郡 司 幹 雄	千葉県文化財保護審議会副会長
鈴 木 民 三	千葉県立美術館友の会会長
高 橋 恒 三	和洋女子大学常務理事
田 中 穰	美術評論家
野 口 貞 子	千葉市婦人グループ連絡会役員
畠 山 哲 朗	朝日エム・ケー・シー(株)取締役
牧 田 茂	白梅学園短期大学教授

(五十音順, 敬称略)

千葉県立美術館研究員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
池 田 伊 予	千葉市立末広中学校教諭	高 木 正	流山市立西初石小学校教頭
石 倉 総 子	千葉市立花園中学校教諭	田 辺 宏	勝浦市立興津中学校教諭
大 木 貞 夫	八日市場市立須賀小学校教頭	利 倉 栄 子	千葉市立天戸中学校教諭
香 取 義 春	佐原市立福田小学校教頭	原 田 久 徳	千葉市立新宿中学校教諭
佐 藤 修	佐原市立佐原中学校教諭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭

(五十音順, 敬称略)

昭和58年度予算概要

(単位: 千円)

事 業 名		予算額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費	15,117	特別展 2 事業 11,898 企画展 2 事業 2,539 常設収蔵作品展事業 680
	普及事業費	3,449	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	530	資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	103,740	施設管理, 設備・機械保守委託 その他運営費
施 設 整 備 費	施設整備費	72,500	資 料 { 一般 20,000 基金買戻し 49,500 図 書 展示用備品 アトリエ備品購入 その他
	工事費	1,649	講堂補修工事
合 計		196,985,000円	

注) ○職員の人件費は含まず。

○別に資料購入のための基金(2億円)あり。

収蔵資料（昭和59年3月31日現在）

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購 入	寄 付	合 計
日 本 画		23	28	56	107
洋 画		35	182	265	482
彫 塑		10	27	15	52
工 芸		9	32	29	70
書		14	13	12	39
版 画		3	84	40	127
合 計		94	366	417	877
研究資料		73	127	1,127	1,327
教育資料		116	0	239	355
合 計		189	127	1,366	1,682

昭和58年度新収蔵作品一覧

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 形 状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅 井 忠	百 奇 夜 行		紙 ・ 墨 ・ 巻 子	24.5×930.0	購 入
2	"	鐘 馗 図	明治36	紙 ・ 墨 ・ 軸	78.2× 43.4	"
3	"	田 植 之 図	明治22	絹 ・ 淡彩 ・ 軸	113.1× 49.8	寄 附
4	"	琵琶 法師	明治23～明治30	絹 ・ 着彩 ・ 軸	149.4× 35.5	"
5	"	ほ し か き	明治23～明治30	紙 ・ 淡彩 ・ 軸	128.8× 53.0	"
6	"	もろこしと鳳仙花	明治37～明治40	絹 ・ 着彩 ・ 軸	114.6× 50.5	"
7	"	参 詣	"	紙 ・ 着彩 ・ 額	24.2× 36.2	"
8	浅 井 忠 義 象 人	浅井忠画・池辺義象歌	"	紙 ・ 淡彩 ・ 8枚組	各130.0× 30.2	"
9	池 崎 巴 人	風 の 中 の 釈 迦	昭和58	紙 ・ 着彩 ・ 額	183.0× 91.0	"
10	田 岡 春 徑	五 百 羅 漢		紙 ・ 着彩 ・ 額	206.0×137.0	"
11	"	溪 谷		紙 ・ 着彩 ・ 額	170.0×225.0	"
12	横 尾 芳 月	智 積 院 の 庭		紙 ・ 着彩 ・ 額	174.0×235.0	"

洋 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 形 状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	和 田 英 作	塚 本 靖 肖 像	明治34	キャンバス・油彩・額	44.2 × 36.5	購 入
2	浅 井 忠	犬 と 人 力 車	明治35～明治40	紙 ・ 水墨・額	11.2 × 32.1	"
3	"	大 原 女	明治35～明治40	紙 ・ 水彩・額	21.55× 16.0	"
4	"	花	明治35～明治40	紙 ・ 水彩・額	58.9 × 44.5	"
5	"	壺 と 花 瓶	明治35～明治40	紙 ・ 水彩・額	24.0 × 35.0	"
6	三 橋 兄弟治	楽 器 の ある 静 物	昭和28	紙 ・ 水彩・額	114.8 × 73.2	寄 附
7	"	染 色 を す る 女	昭和29	紙 ・ 水彩・額	150.0 × 74.3	"
8	"	作 品 II	昭和42	紙 ・ 水彩・額	104.5 ×150.0	"
9	"	白いスペースに於ける直線の構成	昭和43	紙 ・ 水彩・額	104.2 ×150.0	"
10	"	ト レ ド 早 春	昭和48	紙 ・ 水彩・額	110.8 ×143.8	"
11	松 本 秋 美	A S P E T T A R E	昭和58	キャンバス・油彩・額	181.8 ×227.3	購 入
12	高 森 登志夫	絵 画	昭和58	キャンバス・油彩・額	130.3 ×193.9	"
13	斎 藤 寅 彦	時 の 跡	昭和58	キャンバス・油彩・額	161.0 ×192.0	"
14	斉 藤 捷 夫	海 辺 の 光 景	昭和58	キャンバス・油彩・額	130.3 ×193.9	"
15	石 橋 武 治	窓 辺 の 少 女		キャンバス・油彩・額	91.0 × 64.5	"
16	浅 井 忠	樹 I		紙 ・ 鉛筆・額	19.0 × 11.5	"

17	浅井 忠	樹	II	紙	・鉛筆・額	19.5 × 13.0	購入
18	"	樹	III	紙	・鉛筆・額	19.0 × 12.0	"
19	"	樹	IV	紙	・鉛筆・額	19.0 × 11.8	"
20	"	樹	V	紙	・鉛筆・額	19.0 × 12.2	"
21	"	西洋婦人		紙	・鉛筆・額	15.2 × 11.0	"
22	"	人物立像		紙	・鉛筆・額	16.8 × 11.0	"
23	"	人物坐像		紙	・鉛筆・額	13.5 × 11.0	"
24	"	石膏臨画		紙	・鉛筆・額	23.6 × 18.6	"
25	"	塔の沢		紙	・鉛筆・額	12.0 × 19.2	"
26	"	風景家		紙	・鉛筆・額	11.0 × 18.0	"
27	"	農		紙	・鉛筆・額	12.0 × 17.7	"
28	"	舟		紙	・鉛筆・額	18.4 × 28.2	"
29	"	馬二態		紙	・鉛筆・額	11.2 × 15.8	"

彫 塑

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	米林雄一	CIRCLE AND TRIANGL	昭和58	木・鉛筆・鉛	200×133×34	購入
2	山崎英五	地を這うものども VIII	昭和53	石	18× 32×30	"
3	"	地を這うものども XIII	昭和56	石	15× 56×31	"
4	"	地を這うものども XII	昭和56	石	33×105×67	寄 附

工 芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×重量kg)	受入方法
1	大須賀 選	作品63—7(室内とうろう)	昭和38	銅・鑄金	180×60×60	寄 附

書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅見喜舟	崔子玉座右銘	昭和58	紙・墨・4曲4隻屏風	各170.0× 240.0	寄 附
2	"	蘭亭叙		紙・墨・6曲5隻屏風	各170.0× 360.0	"
3	千代倉 桜舟	いろは歌	昭和53	紙・墨・額	178.5×3,667.0	"

研究資料

番号	資料名	数量	受入方法
1	浅井 忠資料 書簡(都鳥英喜宛)	8通	寄 附
2	" 教科書(浅井忠著)	4種	"
3	浅井忠関係資料 黙語会会員簿	1冊	"
4	" 黙語会三年祭会者人名簿	1冊	"

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炔器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法を用いた。

今回使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行ない、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成してゆく。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロがしみ込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV（定風量型）＋VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁画は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（透過率53.6%）と黒地のジョーゼット（透過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

【設計監理者】

建築：大高建築設計事務所

構造：木村俊彦構造設計事務所

設備：科学応用冷暖研究所

備品：大高建築設計事務所

【施工者】

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)、衛生＝第一管工事(株)、
電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工、山口木材、佐々木ブラインド

【設計期間】

基本設計：昭和46年11月～昭和47年1月

実施設計：1期展示棟＝昭和47年7月～昭和48年1月

2期管理棟＝昭和48年7月～昭和48年11月

3期県民アトリエ棟＝昭和53年9月～

昭和54年11月

【施工期間】

1期展示棟：昭和48年4月～昭和49年3月

2期管理棟：昭和50年4月～昭和51年2月

3期県民アトリエ：昭和54年3月～昭和55年2月

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底まで：GL－5.00m、最高軒高GL＋9.33m、
最高高さ：GL＋15.20m

【都市計画地域指定】

用途地域：準工業地域

【規模・面積】

敷地面積：33,057.87㎡、建築面積：7,641.9㎡、建
ぺい率：23.11%、延床面積：8,970.85㎡、展示棟＝
5,194.59㎡、管理棟＝2,274.60㎡、県民アトリエ棟
＝1,501.66㎡、駐車台数：101台

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造（プレストレスト導
入）、屋根：鉄骨造／主鋼材の種類：H型、山型、平
鋼＝S S 41および高張力鋼、P C鋼棒／コンクリ
ートの種類：A種・普通コンクリート（基礎・地中梁
・1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$ 、B種・軽量コンクリ
ート（梁・スラブ用・地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$ 、C種・
軽量コンクリート（地上部躯体でA、B以外の梁・
壁など） $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上】

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィング・コロ
シート、天然スレート3枚葺、陸屋根＝アスファ
ルト防水、押えコンクリート、豆砂利打込み

外壁：珪酸質タイル（先積ブリック打込工法）一部
コンクリート打放しおよび珪り仕上に撥水剤塗布
開口部：昭和鋼機(株)オーダーメイド自然発色サッ
シュ、一部型鋼グラファイト処理サッシュ、旭硝子
スーパーサンゴールド

【内部仕上】

玄関ホール・ロビー・第7展示室：床・巾木＝自然

石（北木島御影）円盤摺および本磨、壁＝コンクリ
ート砕り仕上げ、プラスター中塗下地塗装仕上げ、
天井＝岩綿吸音板 天井高＝2,300 4,200～13,500
展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル、壁＝石
綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、塗装仕上げ
天井＝岩綿吸音板、塗装仕上げ 天井高＝3,600
3,240 4,500～6,100

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイルおよびビ
ニールアスベストタイル、壁＝プラスター中塗下地
塗装仕上げ、天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ、天井高
3,400

収蔵庫：床＝フローリングブロック、壁・天井＝米
杉 天井高＝3,400 館長・副館長室・応接室：＝じ
ゆうたん、壁＝突板練付け、天井＝岩綿吸音板 天
井高＝2,600

講堂：床＝置敷カーペット、一部マコレフローリン
グ、壁＝マコレ練付け、及びクロス張り、天井＝ク
ロス張り

ホール：床＝ビニールホモジニアスタイル

廊下：壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ

情報資料室：天井岩綿吸音板

事務室：床＝ビニールアスベストタイル、壁＝プラ
スター中塗下地塗装仕上げ、天井＝軟質石綿板
第1・第2アトリエ：床＝ビニールアスベストタイ
ル、壁＝コンクリート打放し下地補修の上塗装仕
上げ、天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル、壁＝クロ
ス張り、天井＝岩綿吸音板

和室：床＝玄晶石水磨き、タタミ、檜家甲板、壁＝
京じゅうらく塗、天井＝杉柅ベニヤ目透シ、竿縁天井

【昇降機設備】

荷物用エレベーター（三菱エレベーター）：制御方
式＝交流2段速度歯車式、セレクトィブコレクティ
ブ（DWA）F操作方式、規模：容量3,000kg、カゴ
内法＝ $3,000 \times 3,000 \times 3,000$ 、速度＝ $30\text{m}/\text{min}$ 、戸閉
型式＝電動式2板戸上下開き

【空調設備】

空調方式：展示棟＝CAV（定風量型）＋VAV（可
変風量型）方式；県民アトリエ棟＝各室ハンドリン
グ方式、管理棟＝VAV方式、保管庫＝露点再熱制
御方式

熱源：空気熱源スクリュエ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300）、雨水
系統（管径300）別、公設本管へ放流

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz、電灯幹
線＝交流 単相3線式200V/100V 50Hz、分岐支

流＝単相 2 線式200V/100V 50Hz, 分力幹線および
分岐支流＝交流 3 相 3 線式200V 50Hz, 電話交
換方式：40回線クロスバー完全共通制御分散中継方
式, 契約容量 ;560Kw

【防災設備】

排煙方式：自然排煙, 機械排煙（第1, 2, 7展示室）
消火方式：屋外・屋内消火栓, 不燃性ガス消火設備
ハロゲン1301（電気室, 機械室, 収蔵庫1.2）
自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出
力100kVA

【その他の設備】

防犯設備：ITV カメラ設備, 防犯警報装置, 調光放
送設備, 火災報知設備

工期及建設経費

第 1 期工事（展示棟）

工期 昭和47年 9 月20日～昭和49年 3 月31日

工事費 775,967千円

本 体 工 事	425,230千円
電 気 設 備 工 事	79,663千円
空 調 設 備 工 事	166,493千円
給排水衛生設備工事	28,995千円
外 構 工 事	67,705千円
ガ ス 工 事	7,881千円

第 2 期工事（管理棟）

工期 昭和50年 3 月 1 日～昭和51年 2 月20日

工事費 453,800千円

本 体 工 事	307,500千円
電 気 設 備 工 事	30,000千円
空 調 設 備 工 事	79,000千円
給排水衛生設備工事	19,514千円
外 構 工 事	17,786千円

第 3 期工事（県民アトリエ）

工期 昭和54年 3 月22日～昭和55年 3 月31日

工事費 370,000千円

本 体 工 事	248,758千円
基 礎 杭 打 工 事	16,542千円
空 調 設 備 工 事	56,200千円
電 気 設 備 工 事	35,000千円
給排水衛生設備工事	13,500千円

第 4 期工事

工期 昭和55年12月25日～昭和56年 3 月24日

工事費 8,000千円

外構工事	7,800千円
植栽工事	200千円

総工事費 1,607,767千円

展 示 棟

玄関ホール	102.40 m ²	厨 房	36.00 m ²	工 作 室	31.00 m ²
ク ロ ー ク	91.80 m ²	従業員控室等	17.28 m ²	発 電 機 室	25.00 m ²
倉 庫 A	2.70 m ²	食堂ホール	61.20 m ²	電 気 室	123.20 m ²
〃 B	2.70 m ²	ロ ビ ー	335.52 m ²	ポ ン プ 室	76.80 m ²
第一展示室	437.76 m ²	第一休憩室	23.04 m ²	機 械 室	305.20 m ²
〃 二 〃	400.32 m ²	〃 二 〃	23.04 m ²	高架水槽室	11.46 m ²
〃 三 〃	469.08 m ²	〃 三 〃	23.04 m ²	E. V 機械室	27.28 m ²
〃 四 〃	403.20 m ²	便 所 A	30.24 m ²	E. V 廻 り	54.56 m ²
〃 五 〃	824.19 m ²	〃 B	23.76 m ²	ダクトスペース	35.68 m ²
〃 六 〃	330.58 m ²	身障者用便所	7.92 m ²	廊 下 等	123.48 m ²
〃 七 〃	566.56 m ²	コントロール室	20.16 m ²		
食 堂	119.52 m ²	フィルター室	28.92 m ²	合 計 ①	5,194.59 m ²



管 理 棟

(1階)

第二会議室	22.62	m ²
更衣室	14.83	m ²
医務室	2 118	m ²
文 書 庫	22.02	m ²
警 備 室	43.59	m ²
第一会議室	20.15	m ²
倉 庫	7.19	m ²
湯 沸 室	5.19	m ²
便 所	24.54	m ²
宿 直 室	34.20	m ²
物 置	9.92	m ²
用 務 員 室	31.83	m ²
審査室・資料準 備室・荷解室	520.68	m ²
消 毒 室	31.79	m ²
資 料 倉 庫	124.25	m ²
荷解梱包保管室	52.67	m ²
荷 扱 入 控 室	21.94	m ²
機 械 室	51.74	m ²
廊 下 等	123.52	m ²
小 計	1,183.85	m ²

(2階)

館 長 室	33.27	m ²
副 館 長 室	23.42	m ²
第一応接室	14.67	m ²
第二応接室	14.55	m ²
庶 務 課 室	112.34	m ²
会 議 室	43.84	m ²
学 芸 課 室	195.32	m ²
学芸相談室	23.91	m ²
研究工作室	216.49	m ²
写真スタジオ	54.30	m ²
器 材 室	6.74	m ²
暗 室	12.19	m ²
第一收藏庫	184.40	m ²
〃 二 〃	42.81	m ²
E . V 前室	16.39	m ²
便 所	21.50	m ²
湯 沸 室 A	3.24	m ²
〃 B	6.87	m ²
廊 下 等	60.94	m ²
グクトスペース		
そ の 他	3.56	m ²
小 計	1,090.75	m ²
合 計②	2,274.60	m ²

県民アトリエ棟

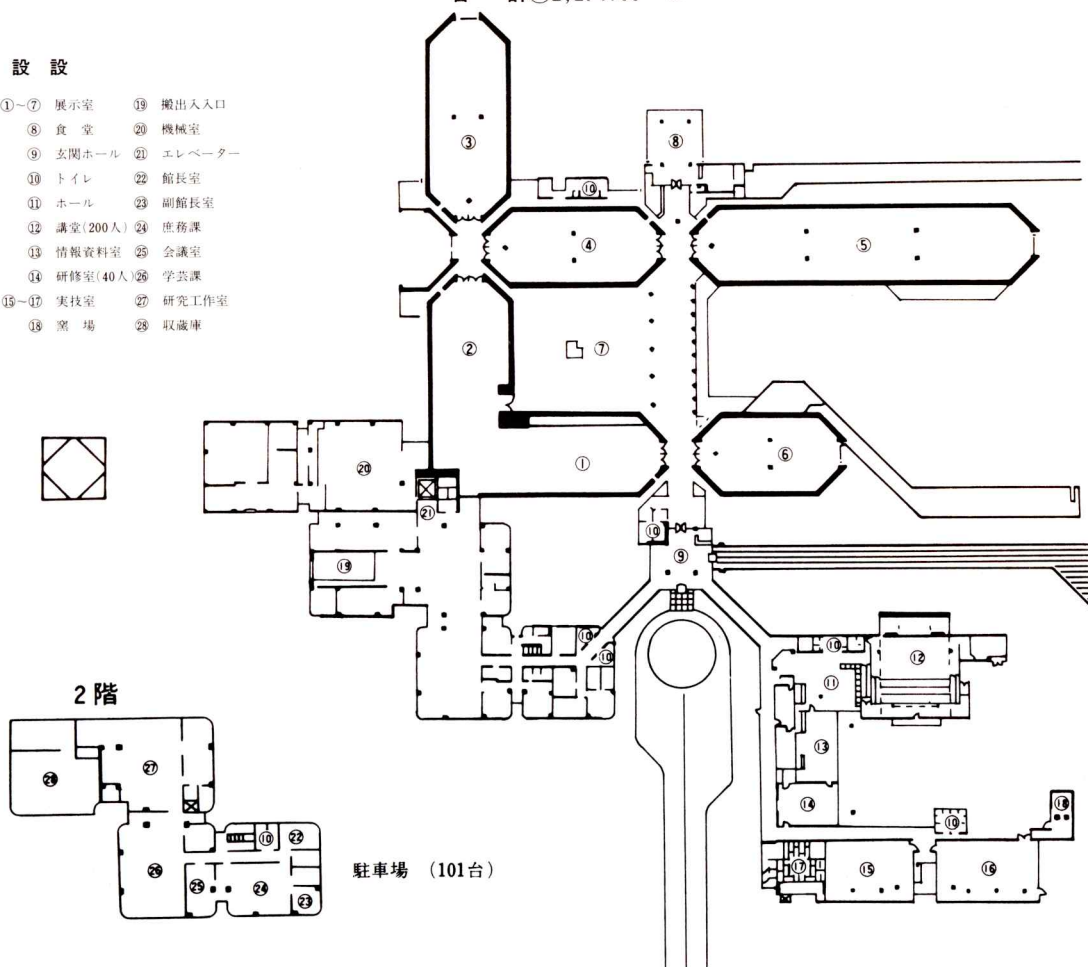
1 F 機械室	25.92	m ²
講 堂 倉 庫	8.64	m ²
講 堂	259.24	m ²
コントロール室	30.33	m ²
ホール側便所	29.97	m ²
情報資料室	172.77	m ²
同 上 倉 庫	4.70	m ²
事 務 室	22.76	m ²
研 修 室	74.70	m ²
同 上 倉 庫	4.23	m ²
第1アトリエ	155.70	m ²
第2アトリエ	184.31	m ²
第3アトリエ	95.47	m ²
アトリエ側便所	20.77	m ²
荷 解 室	25.65	m ²
窯 場	27.17	m ²
同 上 倉 庫	6.66	m ²
ホールその他	352.67	m ²

合 計③ 1,501.66 m²

総 合 計 8,970.85
(①+②+③)

設 設

- ①～⑦ 展示室
- ⑧ 食 堂
- ⑨ 玄関ホール
- ⑩ トイレ
- ⑪ ホール
- ⑫ 講堂(200人)
- ⑬ 情報資料室
- ⑭ 研修室(40人)
- ⑮～⑰ 実技室
- ⑱ 窯 場
- ⑲ 搬出入入口
- ⑳ 機械室
- ㉑ エレベーター
- ㉒ 館長室
- ㉓ 副館長室
- ㉔ 庶務課
- ㉕ 会議室
- ㉖ 学芸課
- ㉗ 研究工作室
- ㉘ 収蔵庫



事業報告

1 “みる”事業について

特別展として、秋に「日本の洋画とフランス」を開催し、19世紀後半から20世紀にかけて、ヨーロッパの近代美術活動の中心となったフランスへ多数の日本人画家が留学したが、彼らがフランスから、なにをどう学んだかを実証的に追ってみた。また、新春には、本館開設10年を迎えて「浅井忠記念賞展」を開催し、第1部では、全国公募による受賞作品及び入選作品を展示し、現代美術の振興に寄与するとともに、第2部では、浅井忠の秀作を展観し、浅井の業績を回顧し認識する機会とした。

企画展では、房総の美術家シリーズ(13)として、墨の美を追求し、本県の書の普及に尽力している浅見喜舟氏に焦点をあてて「浅見喜舟展—書芸70年の歩み—」を開催した。

千葉県移動美術館は第7回を迎え、八街町中央公民館と四街道市旭公民館で開催し、広く県民に美術鑑賞の機会を提供した。

常設収蔵作品展は、三期に分けて、それぞれテーマを設けて開催した。

2 “かたる”事業について

かたる事業としては、「美術講演会」を2回、「美術を語る会」を5回開催した。また、「美術館夏季大学」は、日本画家と彫刻家にそれぞれ芸術観を語っていただくとともに、わが国の近・現代の洋画史の流れに焦点をあてて開催した。

3 “つくる”事業について

つくる事業としては、初心者を対象にした入門講座「日本画入門講座」「洋画入門講座」等、9種16講座、延日数72日と中級者を対象にした研修講座「洋画研修講座」「書芸研修講座」等、2種6講座、延日数22日を開講した。

4 “資料収集について”

公立美術館として、近代美術と現代美術の概況の正しい理解に資するため、千葉県美術品取得基金等を活用し、下記の基準により美術資料の取得に努め、その充実を図った。

- (ア) 浅井忠とその師弟や周辺の作家の作品
- (イ) 日本の近代美術や現代美術に足跡を残した、千葉県ゆかりの作家の作品及び千葉県にゆかりのある作品
- (ウ) 上記の(ア)と(イ)に関連し影響を与えた外国の作家の作品

常 設 展

常設 収蔵作品展

本館の収蔵作品は、これまでの常設展で広く公開してきたが、本年度は、新たに近代日本美術の流れの一端を収蔵作品によって紹介した。また、版画、素描画、水彩画のコーナーを順次設けた。さらに、収蔵作家を紹介するコーナーには、近代美術工芸界に大きな功績を残した金工作家香取秀真をとりあげた。なお、各期間中、一部展示替えをした。

会 期 昭和58年 5月24日～ 8月28日
 展示点数 119点
 入館者数 33,200人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
洋 画			
フォンタネージ	神 女 之 図	山 本 正 年	瑞 飾 宮 朱 光 雀
浅 井 忠	蘆 屋 根	彫 塑	伊 藤 博 文 像
"	京 都 高 等 工 芸 学 校 の 庭 駅	小 倉 惣 次 郎	F e e l i n g - 69
"	沢 入 小 川	大 須 賀 力	存 在 す る 私 音
松 岡 寿	森 と 小	鈴 木 啓 子 実 一	聖 観
和 田 英 作 章 亭	塚 本 靖 肖 像 兄 人	鈴 木 川 逞	鍛 平 城 大 仏 鐘 楼 景
堀 江 井	西 村 房 太 郎	素 描 画	白 浜 (棒をもつ裸体)
"	舟 に 居 る 風 景 顔 像	浅 井 忠	デ ッ サ ン (大原女)
問 部 時 雄 喜 雄	田 園 の 画	"	デ ッ サ ン (神官)
都 鳥 貞 之 助 亭 鼎	バ リ の ス コ 寺 後 雲 近 楼 ル 物 図	田 中 志 奈 子	デ ッ サ ン (裸婦)
椿 中 善 之 助 亭 鼎	聖 フ ラ ン チ ェ ス コ 寺 後 雲 近 楼 ル 物 図	"	デ ッ サ ン (裸婦)
田 中 井 柏 重 太 郎	浴 金 魚 と 附 鐘 楼 ル 物 図	安 井 曾 太 郎	デ ッ サ ン (裸婦)
黒 田 倉 井 曾 太 郎	熱 海 上 の 鐘 楼 ル 物 図	"	裸 婦 像
板 倉 井 曾 太 郎	丘 上 の 鐘 楼 ル 物 図	鶴 田 吾 郎	差 木 ン (F)
大 久 保 作 次 郎	モ ン マ ル ト	"	デ ッ サ ン (G)
原 西 利 雄	人 竹 窓 読 書	"	デ ッ サ ン (H)
中 梅 原 山 道 雄	作 品 I N S E C T S	原 勝 郎	T 長 崎 に
高 山 武 夫 洵 彦 利	嘔 吐 土 師	"	マ ド マ ー ゼ ル H (A)
石 井 林 馨 二 夷 夫 子 定 税	浄 鉄 路 の 信 号 ボ ッ ク ス	中 西 利 雄	孔 雀 の 女 王
日 本 画	佳 境 に 入 る 女 祈 禱 師	"	つ る 草 の ギ タ
石 井 岡 堅 二 夷 夫 子 定 税	浦 島 太 郎 図	永 瀬 義 郎	く さ る と 青 い 鉢 目
吉 岡 山 魁 和 夫 子 定 税	殺 メ ス テ ィ ー ソ の 女 機 達 村 声	浜 口 陽 三	鳥 魚
加 倉 井 畑 郁 具 主	メ ス テ ィ ー ソ の 女 機 達 村 声	"	か 青 草 の 風 景 (B)
高 小 野 主	メ ス テ ィ ー ソ の 女 機 達 村 声	星 襄 一	枯 固 戦 窓 の 中 間
工 芸	取 秀 真	深 沢 幸 雄	S c a t t e r e d S e e d s
香 取 秀 真	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉	池 田 満 寿 夫	N o b o d y K n o w s m y m i n d
"	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉	池 田 良 二	一 樹 下 の 裸 婦 女 A
"	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉	木 内 克	
津 田 信 夫	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉	柳 原 義 達	
"	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉		
"	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉		
信 田 治 平 謙 泉	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉		
鈴 宮 之 原 肥 刀	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉		
土 肥 刀	鳳 笑 鳩 一 鳳 子 北 伸 条 象 釉		

作 家 名	作 品 名
加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)
田中 善之助	山 門
白滝 幾之助	伊 国 ナ ポ リ
長谷川 良 雄	晩 トリエール・シュール・セーヌ
中 西 利 雄	南 仏 風 景
"	白 い 砂
不破 章	ハ テ イ バ ケ の 城 壁
三橋 兄弟治	霞 花 と 浦 海
小 堀 進	"
鬚 嘔	A N G E L E S

出品目錄

[illegible]

会 期 昭和59年 3 月20日～ 3 月31日
 展示点数 103点
 入館者数 4,816人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名
洋 画	
カミーユ・コロー	フォンテンブローの風景
ギュスターヴ・クールベ	雪 の 中 の 小 鹿
浅 井 忠	薬 師 屋 根
松 岡 寿	森 と 小 川
石 井 柏 亭	安 倍 川
"	聖 フランチェスコ寺院
安 井 曾太郎	熱 海 附 近
梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図
"	皇 女 之 居
アントニオ・フォンタネージ	神 フォンテンブローの夕景
浅 井 忠	静 と 小 犬
板 倉 鼎	女 と 海 岸
黒 田 重太郎	岩 上 の 鐘
林 俊 衛	丘 窓 の 少 女
大久保 作次郎	四 人 の 山
石 橋 武 治	放 蕩 息 子 の 帰 宅
小 西 利 雄	海 辺 の 光 景
中 堀 進 一	a s p e c t a r e
小 笹 了 一	
山 谷 捷 夫	原 野
齊 藤 本 秋	群 池 の 魚
日本 画	
松 尾 敏 男	春 雪
富 取 風 堂	花 声
若 木 山 魁	梅 子
東 杉 原 元	夜
関 主 税 子	メ ス テ ィ ー ソ の 女 達
高 畑 郁 学	
渡 辺 芸	
工 香 取 秀 真	鳩 笑 獅 香 子 驚 薫 炉
"	鳳 金 銅 魚 藍 観 音
津 田 信 夫	金 銅 花 彩 花 瓶
"	黄 銅 紋 金 彩 花 瓶
香 取 正 彦	作品63-7 (室内とろう) 体
信 田 治 平	向 瑞 象 嵌 磁 朱 雀 寺
鈴 木 治 平	年 謙 平 芳
大 須 賀 肥 正	宮 之 原 田 喬 滋
土 山 本 正	藤 青 木 光
彫 塑	
藤 野 天 光	銃 後 工 場 の 護 り 春
"	あ 遙 面 鳥
綿 引 司 郎 章	
鈴 木 章	

作 家 名	作 品 名
大須賀 力	椅子の女像
木 村 賢太郎	立 う ご め く ト ル ソ ー II
"	う ご め く ト ル ソ ー VI
"	海 の 肖 像
郡 司 和 夫	詩 人 の 肖 像
中 島 幹 男	風 婦 の 雲 春
鈴 木 英 五	山 地 を 這 う も の ど も XIV
書	
石 井 雙 石	林 鳥 相 忘 不 避 人 山
江 川 碧 潭	龍 檀 天 良 桃 待 五
浅 見 喜 舟	小 暮 青 風 龍 総 子 塘
浅 見 錦 南	大 石 隆 松
鱸 貞雄	椿 貞雄
洋 画	
椿 貞雄	自 八 横 堀 春 ア 黒
"	重 角 次 郎 兄 像 (春)
"	堀 秋 冬 図 屏 風 裸 体 輪
"	ア ン ド レ 椿 一 輪
"	黒 壺 に 岩
"	鋸 山 から 見た 房 総 半 島
"	老 政 治 家 の 像 (渡辺義一君像)
"	水 彩 画 家 (果 図)
"	秋 鴨
日本 画	
"	山 茶 花 図 ぜ い
"	お か こ れ
原勝郎コーナー	
洋 画	
原 勝 郎	コ ー ヒ ー ひ き (C)
"	森 森
"	京 橋
"	樹 (A)
"	森 モ ン マ ル ト ル
"	街 灯 の あ る 風 景
"	デ ッ サ ン (A ~ P)

特 別 展

日本の洋画とフランス

会 期 昭和58年 9 月 3 日～10月12日

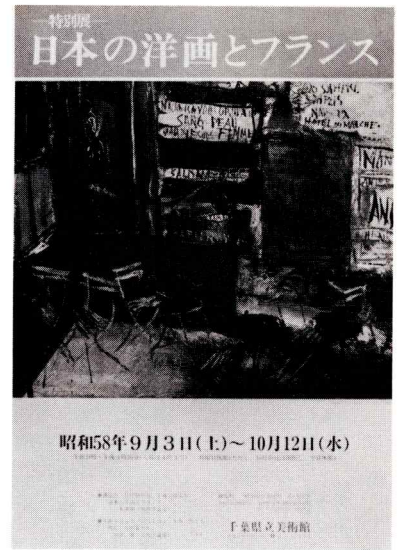
展示点数 116点

入館者数 6,109人

特別展「日本の洋画とフランス」には、日本近代洋画史の形成事情ともいべき原風景を重視している本館の意図が秘められている。

フランスは19世紀後半から20世紀にかけて、ヨーロッパの近代美術活動の中心になった。こうして、多数の日本人画家も留学して、心技の受容に努力した。

この歴史を省察するため、特に近代洋画史上の日本人画家が、フランスからなにをどう学んだかを実証的に追うことにした。



出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
山 本 芳 翠	白 勢 和 一 郎 の 肖 像	"	男 (デッサン)
浅 井 忠	フォンテンブローの夕景	"	坐 る 男(デッサン)
"	農 婦	和 田 英 作	塚 本 靖 肖 像
黒 田 清 輝	田 舎 家	"	人 物(デッサン)
"	画 室 の 一 隅	斎 藤 豊 作	フ ラ ン ス 風 景(Ⅱ)
"	眠 れ る 女	"	雨 後 の 夕
"	裸婦習作(デッサン) 2点	森 田 恒 友	フランス風景(フルターニュ・2)
"	裸体習作(デッサン)	"	ブルタアニュの 1
久 米 桂一郎	フ ラ ン ス 風 景	"	ベ ト イ ユ の 春 (2)
"	ブ レ ハ の 海	山 下 新 太 郎	裸 婦
"	清 水 秋 景 図(山径晚暉)	有 島 生 馬	林 檜 と 梨
"	鴨 川	"	バ イ プ を 吸 う 男
"	裸体習作(デッサン) 2点	"	背 筋 の 女
"	裸婦習作(デッサン) 2点	"	青 年 の 裸 体
中 村 不 折	裸 体 習 作	正 宗 得三郎	モ レ ー の 冬
"	男 子 立 像	金 山 平 三	無 題(セーヌ下流)
"	裸 婦 立 像	"	エ ボ レ ー ン の 女
"	た そ が れ	萬 鉄五郎	日 傘 の 裸 婦
岡 田 三郎助	セ ー ヌ 河 上 流 の 景	田 中 保	裸 婦 ・ 窓 ・ 海
満 谷 国四郎	裸 婦	"	裸 婦 と 彫 像
"	裸 婦	藤 田 嗣 治	巴 里 風 景
鹿子木 孟 郎	裸 婦(エチュード)	"	猫 の い る 静 物
"	裸 婦(エチュード)	黒 田 重 太 郎	一 修 道 僧 の 像
"	バ イ プ を 持 つ 男	"	浴 後
"	高 原 の 少 女	安 井 曾 太 郎	裸 婦 (デッサン) 8点
"	子 供(デッサン)	梅 原 龍三郎	横 臥 裸 婦

作家名	作品名
梅原 龍三郎	裸婦(デッサン) 2点
坂田 一男	椅子による裸婦
原 勝郎	モンマルトル
川口 軌外	ボヘミアン
"	少女と貝殻
中川 紀元	街
"	婦人像
"	裸婦
矢部 友衛	習作(裸婦)
小島 善太郎	青い帽子(テレサ像)
児島 善三郎	黄色い花の枕の裸婦
"	レースを着る女
"	立てるソニア
中山 巍	家婦
"	巴里
"	老職工
福沢 一郎	無敵の力
"	嘘発見器
木下 孝則	後向きの裸女習作
"	赤衣の女
古賀 春江	埋葬
"	夏山
"	サカス
中村 研一	フランス婦人像
"	モレ風景
里見 勝蔵	裸婦
前田 寛治	赤い帽子の女
"	新緑風景

作家名	作品名
林 武	椅子による裸婦
"	裸婦
東郷 青児	ビルヌーブ・ルーベ
"	村の祭
小山 敬三	アルカンタラの橋
"	簿暮(アルカンタラの橋)
佐伯 祐三	パリ郊外風景
"	門と広告
"	レストラン
"	テラスの広告
田崎 広助	セーヌ河の橋
"	河辺の風景
野口 弥太郎	ディバンに倚る女
"	フレンチカンカン
"	巴里の夕暮
板倉 鼎	静物
"	裸婦
荻須 高德	モンマルトル裏
鳥海 青児	夜のノートルダム
"	セリス
村井 正誠	パンチュール No. 1
"	ゴルフジュアンの庭
山口 薫	緑衣の女
"	パリの画室から
岡本 太郎	コントロールポアン



講演会 9月18日「日本の洋画とフランス」

三木多聞氏

美術を語る会 10月1日「渡仏した画家たち」

田中 穰氏

印刷物	図録	25.7cm×18.2cm	1,000部
	ポスター	72.8cm×51.5cm	1,000枚
	"	36.4cm×51.5cm	500枚
	目録	B 5	20,000枚



千葉県立美術館開設10年記念特別展 浅井忠記念賞展

会 期 昭和59年 1 月14日～ 2 月22日

展示点数 第 1 部 95点

第 2 部 82点 その他関係資料

入館者数 8,072人

千葉県立美術館は、昭和58年度に開設10年を迎えた。開館以来、近代美術館及び地域の美術館として、「みる・かたる・つくる」の3つのテーマを掲げて、総合的な美術館活動を目指している。

この間、日本近代美術史上で先駆的な役割を果たした本県出身の洋画出身の洋画家浅井忠の画業を顕彰することについて重点的に取り組んでいる。

本館開設10年事業として、第1部では、浅井忠記念賞を設定し、全国公募による応募作品の中の秀作に贈呈し、受賞作品及び入選作品を展示し、現代美術の振興に寄与するとともに、第2部として、浅井忠の秀作を展観し、その業績を回顧し認識する機会とした。

審 査 員

乾 植 陰 加	由 村 里 藤	明 鷹千代 郎 貞 雄	嘉 門 河 桑 田	安 北 原 中	雄 倫 住 穰	中 村 傳三郎	村 田 平 作	原 本 間 正 義
---------	---------	-------------	-----------	---------	---------	---------	---------	-----------

出 品 目 録

第1部 公募受賞及び入選作品

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
大 賞		前 川 謙 一	流 動 する も の 1983
松 本 秋 美	a s p e c t t a r e	中 村 学	風 景 屋
優秀賞		中 谷 時 男	舟 小 話
高 森 登志夫	絵 画	宮 坂 健	神 海 からの た より
斉 藤 捷 夫	海 辺 の 光 景	紺 野 五 郎	成 田 郊 外
斎 藤 寅 彦	時 の 跡	久 保 博 孝	風 姿 ・ 九 十 九 里
入選作品		根 本 忠 緒	重 力 場 に つ い て
前 窪 幸 二	蟹 現 状 '83	沢 田 英 治	地 に 還 る も の
白 尾 勇 次		北 山 寛 一	屋根のある風景 (ベニス)
江 崎 充 隆	桜	中 村 一 良	西 風 来 迎
渡 辺 芳 樹	LA TARDE (昼下り)	智 内 兄 助	残 照
松 本 明 也	土	原 三 郎	竜 の ハ ナ 唄
太 蛾 亜 美	耳袋 (鳥は食うてもとり食うな)	庄 田 常 章	ANNIVERSARY DAY
吉 岡 正 人	二 人 居 る 部 屋	福 田 建 之	夜 空 の 擬 態
土 嶋 敏 男	人 と 物 (刻の構図)	菊 池 敏 之	歩 (石連作)
宮 沢 昇	醸 造 蔵 の ある 風 景	安 永 元 典	夢 現
竹 内 庸 悦	川 光 る	峰 尾 幸 仁	風 の 風 景
野 村 保 夫	房 州 花 表 裏	森 一 浩	呪 術 師 の 森
三 橋 文 彦	静 物 ・ Composition	佐 藤 昌 宏	わ ら べ 詩
清 水 光 子	濤	池 田 征 史	室 内
彦 坂 健	お ん な 達	松 岡 滋	孤 独 の 体 系
佐々木 俊 介	ガードレールに囲まれて	館 野 弘	



作家名	作品名
森田康雄	バースデェイ・レイン
平岡靖弘	大地 (土に聴く)
保坂晶	風 光
大塚利典	采 (さい)
吉野順夫	作品 '83-2
玉川信一	一人だけの風景
安達博文	男と女その“イ”
土屋貢一	チンチョンに捧げる
石井精一	S t a i r s - 8
小島鐵男	道 化 の 刻
鈴木明夫	逆 立 ち
大竹山規	私のコーヒーブレイク
志摩じゅん	ピ エ ロ
山口和雄	静 か な 時
稲田年行	海 へ の 幻 想
船越一人	北 国 の 落 日
島田裕之	SHE MAKES IT BETTER?
高野雅彦	静 物
安益耕平	河 沿 い の 街
森家要	羅 漢 一 人
生駒泰充	午 後 の 刻
岬和男	聖 家 族
桎木高	毬 少 女
桜井晨正	U N A D O N N A
片山洋一	あ・い・う・え・お
小林宗二	二 月
藤田西洋	壁 の 前 の 静 物

作家名	作品名
蛭田均	帽子の女
金石出	ブ ラ イ ン ド (II)
広田百合子	Yono soy turista 私は観光客ではない
岡本透	霧 が 峰 高 原
高橋利蔵	真 冬 の 街 並
五十嵐公江	寡 黙 II
荒木尚	露 店
高 鬼 子	晩 秋 の 高 原 に て 1983
斎藤ヤスヒロ	真 理
大槌隆	太 陽 の な い 風 景
畠山誠	壁
中島祥子	晩 い 夏
佐々木壮六	ミ ュ ー ズ の 園
小泉正彦	樹 響
田崎末満	三 月 B
山信田稔	進 化 プ ラ ン
瀬川富紀男	ある看板からのメッセージ
井上公子	卓 上 の パ ラ ダ イ ス
安盛孝一郎	さ す ら う 人
瀬川明甫	あ る 風 景
星加哲男	巷の祈禱師(キャンペーン)
熊谷文利	転 位 '83 - 地 - IX
中林忠良	L a n d s c a p e
浜松繁雄	黙 示 録
城戸清登	卓 上 の 緻 密
宮澤篤志	早 春
木下誠一	譜

第2部 浅井 忠作品

作品名	制作年
●油彩・水彩・素描	
鍛 冶 橋	1878頃
印 旛 沼	"
沢 入 駅	1884
鎌 倉	1885
鎌倉建長時(2)	"
奈 良	1886
平城大仏鐘楼	"
多 摩	"
農 夫 帰 路	1887
八王子付近の街	"
室 内	1887頃
薬 屋 根	"
房 州 白 浜	1887
房 州 白 浜 村	"
房 州 乙 浜 村	1888
房 州 白 浜 畝	"
春	"

作品名	制作年
少 女	1894頃
石 門 子 小 休 止	1894
金 州 城 壁 上	"
金 州 城 南 門 外	"
瀬家屯天長節祝宴	"
貔子窩第二軍司令部	"
平壤大同江煉光亭	"
旅順戦後の搜索	1895
房 州 海 岸 風 景	"
フォンテンブローの夕景	1901頃
グ レー の 洗 濯 場	1901
グ レー の 柳	"
グ レー の 秋	"
男 性 裸 像	"
グ レー の 塔	"
河 畔 洋 館	"
樹 下 の 女 像	1901頃
西 洋 婦 人 像	不詳

作 品 名	制作年
フォンテンブローの森	1901
若 葉	"
グ レー の 橋	1902
河 辺 の 古 城 趾	1902頃
農 婦	1902
縫 い も の	"
女 の 顔 (模写)	不詳
洋 上 の 夕 陽	1902
中 沢 岩 太 像	"
欧 州 市 場 風 俗	不詳
聖 護 院 の 庭	1903
京 都 高 等 工 芸 学 校 の 庭	"
奈 良 郊 外	"
安 治 川 風 景	1904頃

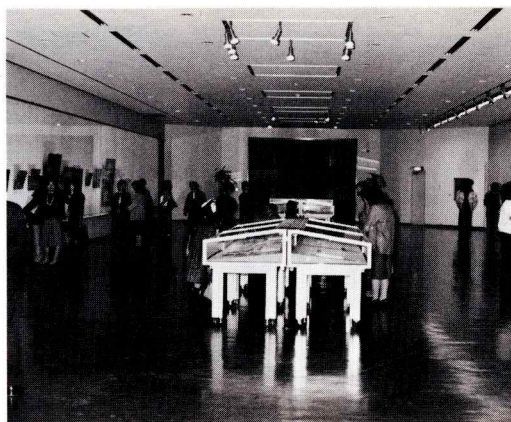
作 品 名	制作年
京 都 の 牛	1904頃
奈 良 の 鹿	"
犬 と 人 力 車	1904
都 鳥 助 八 重 成 像	不詳
母 の 肖 像	"
老 母 像	1906
若 王 子 風 景	1907
婦 人 像	"
●日本画	12点
●工 芸	7点
●彫 塑	6点
●その他関係資料	



講演会 1月22日『『日本の四季』と浅井忠』
芥川喜好氏

美術を語る会 2月4日「浅井忠を追って10年」
高橋在久

印刷物 図録(1部)24.5cm×25.0cm 2,000部
" (2部)24.5cm×25.0cm 1,000部
開催・募集要項 B4二ツ折 7,000部
ポスター(公募)72.8cm×51.5cm 3,500枚
" 72.8cm×51.5cm 1,000枚
目録 B5 10,000枚



企 画 展

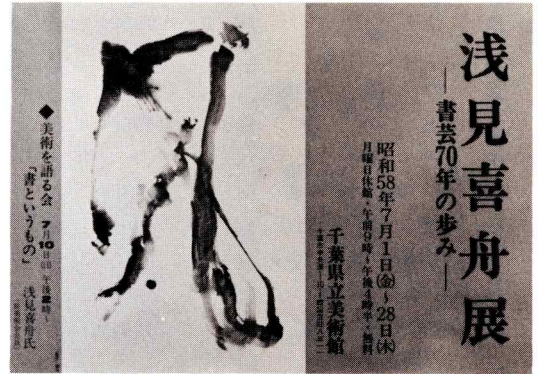
浅見喜舟展

—書芸70年の歩み—

会 期 昭和58年7月1日～7月28日
 展示点数 57点 その他関係資料
 入館者数 9,848人

書家浅見喜舟氏は、現在、千葉県美術会会長、書星会理事等、多くの要職にあり、常に第一線に立って創作活動が続けている。

本展は、氏の初期の代表作から近作までの作品約60点と参考資料を一堂に展示し、書芸一筋に生きてきた氏の70年にわたる足跡を紹介した。



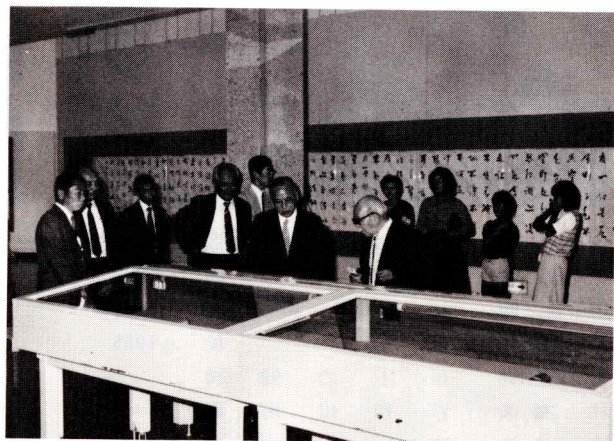
出 品 目 録

作 品 名	制作年
無 事	
竹 密 雨 聲 萬 ……	
晋 陶 弘 景 語 (臨書)	昭和30年
風 花	昭和31年
石 長 無 根 樹 ……	昭和40年
到 處 称 尊	昭和43年
従 来 心 似 鐵	昭和44年
眠 雲 聽 泉	昭和51年
一 静 抵 千 金	昭和51年
畫 龍 點 睛	昭和53年
崔子玉座右銘 (楷書)	昭和56年
面 壁 九 年	昭和57年
千 字 文 (行書)	昭和58年
千 字 文 (草書)	昭和58年
蘭 亭 叙 (篆書)	昭和58年
蘭 亭 叙 (隸書)	昭和58年
蘭 亭 叙 (楷書)	昭和58年
蘭 亭 叙 (行書)	昭和58年
蘭 亭 叙 (草書)	昭和58年

作 品 名	制作年
崔子玉座右銘 (隸書)	昭和58年
崔子玉座右銘 (楷書)	昭和58年
崔子玉座右銘 (行書)	昭和58年
崔子玉座右銘 (草書)	昭和58年
朱 熹 詩 偶 成 (七言絶句)	昭和58年
太 公 有 意 垂 鉤 ……	昭和58年
楷 書 書 譜	昭和9年
仲 尼 夢 奠 帖 (臨書)	
枯 樹 賦 (臨書)	
樂 毅 論 (臨書)	
祭 姪 稿 (臨書)	
伯 遠 帖 (臨書)	昭和23年
い ろ は	
磐 若 心 経	
孝 経 三 章	
粟	
旭 日 と 松	
芍 薬	
木 蓮	

作	品	名	制作年
富遊	意	鶴	士
隨	讀	吾	魚
轉	法		書
看			論
行			戲
桃	泉	帶	路
幽	室	有	歸
養	壽	宜	好
		忘	慮
			昭和47年
			昭和50年
			昭和50年
			昭和52年
			昭和54年
			昭和57年
			昭和57年
			昭和57年

作	品	名	制作年
山	呼	萬	歲
影			聲
歌	心	清	琢
冬	嶺	秀	風
卜		孤	松
心	肅	容	居
春	追	鳥	敬
山	里	八	開
船	王	後	慕
著	作	物	誌
			(臨書)
			
			等資料



美術を語る会 7月10日「書というもの」
浅見喜舟氏
印刷物 目録 B 5 6 ページ 5,000部

第7回 千葉県移動美術館

八街町中央公民館

会 期 昭和58年9月20日～10月5日

四街道市立旭公民館

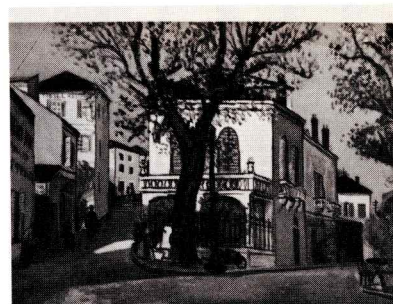
会 期 昭和58年10月8日～10月23日

展示点数 47点

入館者数 八街町中央公民館 1,409人

四街道市立旭公民館 2,955人

本館は、昭和49年10月に開館して以来、郷土にかかわりの深い作品を中心に、徐々に収集の輪を広げている。これらの作品は本館の常設展において、特別展等の期間を除いて順次公開してきたが、さらに、より広く県民に美術作品鑑賞の機会を提供するために企画したのが千葉県移動美術館である。



千葉県立美術館収蔵作品による

第七回 千葉県移動美術館

昭和58.9.20(土)～10.5(日) 八街町中央公民館
昭和58.10.8(土)～10.23(日) 四街道市立旭公民館

主催 千葉県立美術館・八街町教育委員会・四街道市教育委員会

作 品 目 録

作家名	作 品 名	制作年	作家名	作 品 名	制作年
日本画			中西利雄	南 仏 風 景	1930
富取風堂	群 魚	1967	不破 章	二 女	1953
島多訥郎	秋 趣	1966	小堀 進	逆 光	1974
東山魁夷	門	1952	笹岡了一	秋 麗 芦 の 湖	1969頃
立石春美	狗	1967	緩 嘔	I N S E C T S	1975
渡辺 学	川 口	1976	版 画		
松尾敏男	原 野		浜口陽三	ピーマンのある静物	1960
後藤純男	山 門 雨 後	1974	浜口陽三	さくらんぼと青い鉢	1976
洋 画			星 襄一	王 の 樹	1976
浅井 忠	薬 屋 根	1887頃	星 襄一	陽 (林)	1978
伊藤快彦	林 檎		深沢幸雄	古 い 楽 譜	1965
都鳥英喜	洛 北 の 早 春	1934	深沢幸雄	影 (メヒコ) A	1974
石井柏亭	信 州 風 景	1948	池田満寿夫	S o m e t h i n g I	1966
霜鳥之彦	緑のスウェーター	1923	池田満寿夫	シンデレラの広告	1966
黒田重太郎	女 と 小 犬	1928	彫 刻		
安井曾太郎	熱 海 附 近	1929	藤野天光	希 望	
梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937	大須賀力	倚 る	1957
田中善之助	パ リ の 女	1921頃	神野義衛	呻	1972
原 勝 郎	京 橋	1955	工 芸		
太久保作次郎	丘 上 の 鐘 楼		香取秀真	笑 獅 子 香 炉	
林 俊 衛	岩 和 田 海 岸		津田信夫	子 迷 家 鴨	1938
椿 貞 雄	鋸山から見た房総半島	1948	宮之原謙	象 嵌 磁 鉢	1968

作家名	作品名	制作年
土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	
香取正彦	金銅魚籃観音	1975頃
信田洋	装瓶(楼)	1966
藤田喬平	飾筥朱雀	1978
鈴木治平	条紋金彩花瓶	1977
書		
大石隆子	待郷之山	1975
種谷扇舟	故郷之山	1971
鈴木方鶴	万昌	1973



印刷物 ポスター 59.4cm×42.0cm 1,000枚

千葉県芸術祭

第35回 千葉県美術展覧会

会 期 昭和58年10月22日～11月13日
展示点数 1,987点
主 催 千葉県美術会・千葉県教育委員会・千葉県・千葉市教育委員会

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資するために開催するもので、日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の各分野を展示した。

	会員点数	公募点数	入選点数	展示点数	新入選
日本画	84(79)	179(213)	152(156)	236(235)	36
洋 画	178(179)	646(633)	370(362)	548(541)	110
彫 塑	57(65)	34(32)	31(31)	88(96)	10
工 芸	56(54)	157(142)	118(105)	174(159)	46
書 道	184(178)	910(889)	757(777)	941(955)	131
計	559(555)	1926(1909)	1428(1431)	1987(1986)	333

() 内は34回展

解説会 10月29日 日本画
10月30日 洋 画
11月 6日 彫 塑
11月12日 工 芸
11月13日 書 道

第15回 千葉県高等学校芸術祭

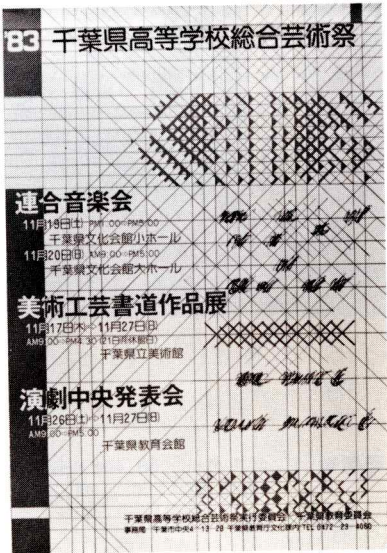
美術工芸書道作品展

会 期 昭和58年11月17日～11月27日
主 催 千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会
千葉県教育委員会

千葉県高等学校における美術、工芸、書道の授業及び部活動の平素の姿を紹介し、生徒の教材として、また、教師の指導の研究材料として役立てるとともに、広く一般社会に対して、現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めてもらうことを目的とした。

参加状況

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	104校	92校	196校
教 員	94校	22校	116校
計	198校	114校	312校



昭和58年度千葉県芸術祭
第30回 千葉県勤労者美術展

会 期 昭和58年 9月27日～10月 2日
展示点数 335点
主 催 千葉県労働者福祉協議会・千葉県

勤労者が余暇を利用して創作した美術品の発表の場を提供することによって、文化的教養の向上を図った。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
230	335	230	335	335	0

昭和58年度千葉県芸術祭
第33回 千葉デザイン展

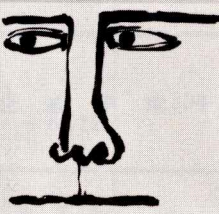
会 期 昭和58年 9月27日～10月 2日
展示点数 98点
主 催 千葉商業美術協会・千葉市教育委員会・
千葉県教育委員会

グラフィックデザイン作品の公募及び展示することにより、県内
デザインの質的レベルアップをはかるとともに、デザイン志向者の
育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
128	141	75	77	98	14

33回 千葉デザイン展

9月10日(土)～11日(日)
会場: 千葉市中央市民会館
入場料: 無料
主催: 千葉商業美術協会・千葉市教育委員会・千葉県教育委員会



力作公募

会期: 9月27日(火)～10月2日(日)
会場: 千葉県立美術館(千葉市) 第4室
AM9:00 PM4:30

昭和58年度千葉県芸術祭
第 6 回 千葉県写真展

会 期 昭和58年11月17日～11月27日
展示点数 141点
主 催 千葉県写真家協会・千葉県教育委員会

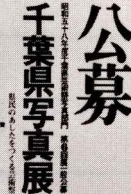
写真を通じて、千葉県の文化向上に資する目的で、千葉県芸術祭
行事として、広く県民に公募し、千葉県の観光、風俗、文化を紹介
した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
214	458	89	103	141	27

公募

千葉県写真展

11月17日(土)～27日(日)
会場: 千葉県立美術館(千葉市) 第4室
入場料: 無料



会期: 11月17日(土)～27日(日)
会場: 千葉県立美術館(千葉市) 第4室
入場料: 無料

団 体 展

展 覧 名	内 容 等	会 期	展示点数
第9回 千葉県自然保護写真コンクール入賞作品展	千葉県自然保護写真コンクール入賞の優秀な作品を展示し、千葉県の美しい自然の姿を通じて、自然保護思想の普及啓蒙を図った。	58.4.5 ～4.10	72
第20回 全日本書の友会総合書道大展览会	千葉県の郷土の書道文化の向上をめざし、加えて全国各地より参加し、その力量を競い合い、書道を通じて千葉県の書道文化の向上発展に貢献することを目的とした。	58.4.12 ～4.17	1,662
武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	日頃の研究成果を発表することにより、相互の啓発と後進の育成を図るとともに県内の美術、デザインの認識を高め向上を図った。	58.4.12 ～4.17	47
現代書家1,150人展	弘法大師1,150年遠忌にあたり、日展、毎日展を問わず在野を含めた日本現代書家1,150人の作品を展示した。	58.4.26 ～5.1	528
千葉等迦会展	県民に広く本会同人の作品を紹介するとともに、同人各自の研修、向上を図り、併せて新人作家の発掘、育成を目的とした。	58.5.3 ～5.8	58
第10回 千葉新協展	展览会を通し、広い立場で県民の美術的関心を育てるとともに、新人作家の育成を目的とし、絵画、写真を展示した。	58.5.3 ～5.15	99
第9回 歩会彫刻展	県内在住及び県出身の彫刻家により所属や流派にとらわれない自由な勉強の成果を発表することを目的とした。	58.5.3 ～5.15	48
第7回 墨の県展	千葉県の文化の発展に力をつくし併せて県民の伝統及び文化の啓蒙に資することを目的とし、水墨画、墨彩画を展示した。	58.5.10 ～5.15	307
第28回 二科千葉支部展	広く県下一般・ジュニアより作品を公募し、県美術振興の発展を願い、本会の趣旨にそって開催した。	58.5.17 ～5.22	1,194
二紀会千葉県支部展	展览会を開催することによって、本会の向上、発展を図るとともに、千葉県文化の向上に寄与することを目的とし、絵画、彫刻を展示した。	58.5.17 ～5.22	45
第10回 千虹会日本画展	千葉県の日本画壇の結集団体としての本会の発展、向上を目的とした。	58.5.24 ～6.5	40

展 覧 名	内 容 等	会 期	展示点数
第14回 表 美 展	会員の資質の向上を図り、技術の後継を目的として、表装を主に額装などの作品を展示した。	58.5.24 ～ 5.29	119
千葉ーミシガン交換美術展 (千葉県立幕張東高等学校外展)	アメリカ合衆国ミシガン州ウィローラン高校及び小・中学校美術作品を公開し、併せて県立幕張東高校美術コース生徒作品を同時に展覧し、日米美術交流（交換）展とした。	58.5.24 ～ 5.29	530
第6回 一陽会千葉支部展	千葉県在住作家の近作油絵を発表し、会員の研修と美術普及を目的とした。	58.5.31 ～ 6.5	95
第9回 貳 展	流派、作風にとらわれることなく自由に発表できる場として、絵画、工芸、写真等を展示した。	58.5.31 ～ 6.5	52
第30回 千葉県書道協会展	千葉県書道文化の普及と発展のため、流派にとられない高い視点に立って書道作品を展示した。	58.6.7 ～ 6.12	304
第4回 千 葉 全 展	県内同好者の公募を行うとともに、全日本美術協会の関東全域の有志に協力を呼びかけ親睦と相互研修の場とした。	58.6.7 ～ 6.12	143
千葉市アマチュア美術 クラブ 作品 展 覧 会	千葉県在住のアマチュア美術愛好者の作品を紹介し、熱心な美術愛好者を増加せしめるとともに、文化活動の一端をになう意欲を育成することを目的とし、絵画、書道、工芸等を展示した。	58.6.14 ～ 6.19	383
千葉県立佐倉高等学校 美 術 部 30 年 展	同校創立80周年記念の一環として、同校美術部卒業生と在校生作品及び同校所蔵作品を展示し、美術部30年の歩みを展覧した。	58.6.14 ～ 6.26	2,426
第3回 千葉美術工芸展	会員相互の親和と協力により、千葉県の文化の興隆をはかり、会員の資質の向上及び新人育成を目的として工芸作品を展示した。	58.6.14 ～ 6.26	83
第6回 精 鋭 展	県内在住作家への啓発をかねて、会員相互の研修を目的として「病める現代」をテーマに女流画家の作品を展示した。	58.6.21 ～ 7.3	66
第51回 習美会初夏展	美術を通して、潤いのある生活を築き、多くの人々との交流をはかりながら平和と文化に貢献することを目的とし、洋画、日本画を展示した。	58.6.28 ～ 7.3	169

展 覧 名	内 容 等	会 費	展示点数
第1回 教育美術研究会展	美術教育振興と指導技術の向上を目的とし、県内の幼・小・中・高校生徒の作品を展示した。	58.6.28 ～7.3	1,174
第4回 日本扇面展& 青 枢 展	千葉県の文化向上に寄与するため、全国公募による扇面作品と洋画、日本画等を展示した。	58.7.5 ～7.17	1,018
第15回 千葉市水墨画 同好会連合会展	会員相互の親睦と千葉市文化の向上を目的として、水墨画及び掛軸を展示した。	58.7.19 ～7.31	650
日中平和友好条約締結 5周年記念日中書道展覧会	日中平和友好条約締結5周年を記念し、その意識を高め、日中共通の芸術である書道を展示し、多くの出品者と参観者により世界の永遠平和を望むことを願って開催した。	58.8.2 ～8.7	1,000
第3回 千葉サンケイ 現代洋画展	千葉県美術界の発展・向上と新人の発掘を目的として、洋画（版画を含む）を公募し、その入選作を展示した。	58.8.2 ～8.14	271
第12回 写真千葉県展	写真文化の推進を図ることを目的として、県内の写真人を対象に作品を公募し、入選作を展示した。	58.8.9 ～8.21	260
新世紀美術協会 千葉支部長	会員相互の向上を目的として、同会千葉支部員全員の作品を展示した。	58.8.16 ～8.21	66
第11回 千葉市教職員 美術展	千葉市教職員の自己研修の場とし、千葉市教職員の図工・美術担当教員全体のレベル向上に資するため、絵画、彫塑、工芸等の作品を展示した。	58.8.16 ～8.28	103
第13回 いてふ会彫刻展	児童・生徒・保護者に彫刻芸術への興味・関心・理解を深め、情操豊かな人間性を育てるとともに、会員の一年間の成果を問うことを目的に開催した。	58.8.16 ～8.28	40
子供と教師の作品展	美術教育の振興と教師の研修の場として、児童作品及び教師作品を展示した。	58.8.23 ～8.28	225
第3回 日本春秋書院 千葉県書道連盟展	書技術の向上と千葉県書道教育発展に資するため、県内公募作品と会員の作品を展示した。	58.8.23 ～8.28	172

展 覧 名	内 容 等	会 期	展示点数
静 雅 書 道 会 第29回 小中学部千葉地区展	未就学児童より中学生までの会員全員の条幅作品を展示し、日頃の成果を発表した。	58. 8 .30～ ～ 9 . 4	194
龍峽書道会千葉県人会	書道の普及推進を図り併せて、健全なる精神の涵養に努め、ひいては人間形成の醸成に努めることを目的とした。	58. 8 .30～ ～ 9 . 4	400
刻 字 千 葉 展	広く県民に技量を問い、刻字書道の認識と理解を深めるため開催した。	58. 8 .30～ ～ 9 . 4	133
第16回 千葉県高等学校 合 同 写 真 展	生徒相互の写真技術の向上をめざし、県内高校写真部員の作品を展示し、日頃の成果を発表した。	58. 8 .30～ ～ 9 . 4	283
第23回 白扇書道会展	地方文化の発展に寄与するため、会員作品と公募の入選作品を展示した。また、日中友好条約締結5周年を記念しての行事を併催し、国際親善に役立たせるため開催した。	58. 9 . 6 ～ ～ 9 .11	4,076
フ ァ ン シ ー 洋 画 展	第15回を迎え、同会会員の作品を展示し、会員の技術向上とより深い親睦を図るため開催した。	58. 9 .13～ ～ 9 .18	116
第10回 文 化 書 道 千葉県連合会公募展覧会	同会の教育書道の本義に則り、書道教育とその隆昌に貢献するため公募展と併せ開催した。	58. 9 .13～ ～ 9 .18	1,024
第13回 新構造千葉支部展	千葉県在住の同会会員、準会員、会友及び県内公募による入選作品を展示し、出品者相互の親睦と資質の向上を図って開催した。	58. 9 .13～ ～ 9 .18	102
千 葉 83 展	現代に生きる新しい美術についての理解を深めるため、実験的な制作活動を行う美術家の交流と相互啓発を行い、県内美術文化の向上を図って開催した。	58. 9 .20～ ～ 9 .25	144
二 科 会 写 真 部 第3回 千 葉 支 部 展	県内写真作家の作品を展示し、会員相互の技術向上を図るとともに、後進の育成に努めた。	58. 9 .27～ ～10. 2	64
第26回 千葉市小・中・ 養護学校児童・生徒作品 総 合 展 覧 会	各教科、領域における日頃の学習成果を展示し、当該教科領域の向上を図るとともに、作品評価の観点や製作過程の研究を通して、教職員、保護者、児童生徒の研修・啓発に資する。	58.10. 4 ～ ～10.12	5,103

展 覧 名	内 容 等	会 期	展示点数
第28回 こども県展	県内小・中学校児童・生徒の絵画作品を一堂に展示し、次代を担うこどもたちの美的情操を豊かにし、創造性を高めることを目的として開催した。	58.11.29 ～12.11	6,700
第6回 千葉展	行動、主体、新象、新制作、独立、モダンアートの6公募団体に所属する県内在住作家の共同企画で、各団体の枠を超えた真剣勝負の場とし、併せて千葉県美術文化の発展・普及に寄与するため開催した。	58.12.13 ～12.25	138
第19回 登龍社・宮坂会 書初展	書初の作品を作成するにあたり、書道的技術の向上と県文化の貢献に寄与するため開催した。	59.1.5 ～1.8	488
第13回 千葉県大学美術連盟展	千葉県における加盟大学の美術サークル相互の協力により親睦を深め、併せて絵画技術の向上を目的にして、加盟大学に限らず県内各大学のサークルの作品を展示した。	59.1.5 ～1.8	200
今日の美術を考える会 「あ・はれ」展	地方、中央の枠を超えて、現代美術を千葉に広げるため、千葉県在住作家及びベネチア、パリ等のビエンナーレ出品作家を交えて平面、立体作品を展示した。	59.1.10 ～1.22	27
現代書道50人展 現代書壇代表名作展 千葉書壇秀抜展 千葉書壇新進展	県内外の現代書道界から秀抜された作品を一堂に展示し、書道界のより一層の興隆を目的として開催した。	59.1.24 ～1.29	270
群 鷗 書 人 会 展	君津郡会員と東京・岩手県下に在住する会員の多角的様式の研究と現代的書の発表と場とした。	59.1.31 ～2.5	93
親 子 絵 画 展	美術を媒介として、親と子のきずなをより強くするため、親と子の絵画、彫刻、工芸等を展示した。	59.1.31 ～2.5	165
第36回 千葉県小・中・高校書初展覧会	県内小・中・高校生の書初を実施することにより、書写・習字教育の振興に寄与し、併せて、伝統的な書初の風習を継承していくため開催した。	59.1.31 ～2.5	850
第18回 千葉大学 学 生 書 道 展	卒業制作作品を中心に1年間の成果を展示し、地域文化の向上に資するため開催した。	59.2.7 ～2.12	150
千葉大学教育学部 美術科卒業制作展	卒業を目前にして、4年間の美術科教師になるための学習の一部を作品を通して発表し、観覧者の批判・指導を仰ぐべく開催した。	59.2.7 ～2.12	47

数	展 覧 名	内 容 等	会 費	展示点数
0	第8回 葉美会展覧会	美術館友の会会員の日常の作品や講習で制作した作品を展示し、会員相互の研修と創作の喜びを分かち合うことを目的として開催した。	59.2.7 ～2.19	64
8	子 ども 造 形 展	子どもの個人制作や共同制作の作品を展示し、子ども達の観賞・交流の場とし、併せて、幼稚園教諭、幼児・児童造形講師等関係者の研修の場とするため開催した。	59.2.14 ～2.19	398
8	第9回 千葉県民写真展	県内アマチュアカメラマンがその力量を競い合い、写真文化の発展と写真を通じて地域社会に貢献する精神の涵養を目的として開催した。	59.2.14 ～2.26	300
00	雁 鴻 会 展	和洋女子大学国文学科で書道を履修している学生が4年間の学習の成果を発表した。	59.2.21 ～2.26	44
27	千葉県立幕張北高校 書道コース卒業制作展	書道コースを卒業するにあたり、学習の成果を発表した。	59.2.21 ～2.26	82
70	第15回 記念千葉市民 美 術 展 覧 会	千葉市民美術展の第15回を記念し、美術協会役員による特別展と公募展を開催し千葉市の美術文化の普及・振興を図った。	59.2.28 ～3.18	1,299
93	第31回 書星教育部展	小・中・高校生の習字・書道の振興と技能向上のため半切条幅の作品を展示し、創作活動と作品鑑賞の両面の向上を図った。	59.3.20 ～3.25	1,814
165	第7回 唱 和 会 書 展	会員の研究成果を発表し、書道技術の向上を図り、一般鑑賞者に書道についての理解を深めてもらうため開催した。	59.3.27 ～4.1	45
850	弥 生 書 道 展	書星会師教、師範による平素の書道研究の発表の場として開催した。	59.3.27 ～4.1	120
150	秋耕会千葉支部展覧会	県内在住の同会会員、会友、その他の作品を展示し、相互の研修と親睦を深める場として開催した。	59.3.27 ～4.1	86

教育・普及

講演会

(1) 日本の洋画とフランス

講師 美術評論家 三木多聞氏

期日 昭和58年9月18日

近代を明治以降と考えて、明治の初めは、いわゆる文明開化といわれる時期で、ヨーロッパとの交流が盛んであったが、国粹主義が唱えられるようになって、洋画を志す人々は、直接ヨーロッパへ行って学ぼうとした。

やがて、コランに師事した黒田清輝が帰国し、その紫っぽい、明るい画風は、明治30年代の日本人の気持に合ったので、以後、黒田は日本洋画界の中心的な存在となった。

一方、ヨーロッパでは、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンらが登場し、その新しい美術に心をゆさぶられた日本の作家たちが、続々と帰国し、それらを紹介した。その後しばらく、ヨーロッパの新しい動きが日本に伝えられるといった展開をみせるが、その中で特色なものは、雑誌「白樺」で、当時の国内の作家たちに大きな影響を与えた。そして、第二次世界大戦までの日本では、いろいろ新しい表現のしかたが出てきたのである——と日本の近代洋画の流れについて語ったあと、スライドによって、高橋由一から村井正誠までの日本の代表的な作家20数名と、ルノワール、ゴッホ、セザンヌといった外国作家10名ほどの作品について、エピソードなどをまじえながら解説し、最後に、このように戦前までの日本の洋画がフランスとの関係なしには考えられないこと、また、フランスをひとつのよりどころにして、日本の作家たちが、いかに日本的な表現をしてきたかを考えて、この展覧会をみてほしいと語った。

(2) 「日本の四季」と浅井忠

講師 読売新聞社文化部記者 芥川喜好氏

期日 昭和59年1月22日

これまで3年間「日本の四季」を担当し、浅井忠を2回扱ったので、浅井を取材しながら感じたことについて話したいと前置きし、特に、大森貝塚の発見者モースが在日中に集めた写真と浅井の作品について語った。昨年11月に「日本の四季」で浅井の「藁屋根」を取り上げたが、その「藁屋根」を初めて見たときに、写真的だと直感した。「春畝」の中の人物が写真からとったのではないかと指摘はすでに紹介されており、「農夫帰路」で描かれている人物が写真を参考にして描かれたものであると浅井の弟子石井柏亭もはっきり書いている。このようにみえてみると、「藁屋根」も「収穫」も写真をもとに描かれたのではないかと考えても決して不自然ではない。しかし、写真をもとに描かれたかどうかは重要なことではなく、浅井の作品には写真にはない“土のにおい”があり、情感がある。写真よりイメージを借りたとしても、写真をはるかに卓越している点が重要なのである。

最後に、浅井のヨーロッパより帰国してからの京都時代について、一つの謎であるという気持ちをぬぐいきれないが、洋画に対する絶望とか、画壇に対する絶望があり、常に絶望と隣合せに生きたように思われ、そういう浅井がまた魅力であると結ばれた。



日本の洋画とフランス



「日本の四季」と浅井忠

実 技 講 座

「みる・かたる・つくる」という本館の事業の一環として実技講座を実施しているが、本年度は次の講座を行った。

(1) 日本画入門講座

期 日 第1期 昭和58年6月11日・12日、7月2日・3日・22日・23日・24日

第2期 昭和58年10月27日・28日、11月8日・9日・16日・17日・18日

講 師 第1期 県美術会理事 松原道男氏

第2期 県美術会理事 宮沢一雅氏

参加者数 各期25名

内 容 花、くだもの、野菜などを描きながら、えのぐ、筆などの材料や用具、また、物の見方や色のぬり方など、日本画の基本的な技法について学習した。

(2) デッサン入門講座

期 日 第1期 昭和58年7月19日・20日

第2期 昭和58年8月23日・24日

第3期 昭和58年9月21日・22日

講 師 第1期 千葉大学助教授 戸田健夫氏

第2期 県美術会理事 羽生智樹氏

第3期 洋画家 遠藤健郎氏

参加者数 各期30名

内 容 人物、静物、石膏等のデッサンをし、形のとり方、明暗、立体感、動き、質感、空間感など、デッサンの基本的な技法について学習した。

(3) 洋画入門講座

期 日 第1期 昭和58年6月4日・5日・25日・26日、7月9日・10日

第2期 昭和58年9月3日・4日・24日・25日、10月8日・9日

講 師 第1期 千葉大学教授 太田洋三氏

第2期 千葉県立船橋高等学校教諭 根岸茂行氏

参加者数 各期30名

内 容 人物、静物、風景などを題材にして、油彩の制作を通して、洋画の基礎的な技法等について学習した。

(4) 洋画研修講座

期 日 第1期 昭和58年5月28日・29日、6月18日・19日

第2期 昭和58年7月16日・17日、8月27日・28日

第3期 昭和58年9月10日・11日、10月22日・30日

第4期 昭和58年11月5日・6日・19日・20日

講 師 第1期 千葉大学教授 武内和夫氏

第2期 県美術会理事 高橋規矩治郎氏

第3期 県美術会常任理事 篠崎輝夫氏

第4期 県美術会理事 天野三郎氏

参加者数 各期30名

内 容 洋画入門講座の修了者、または同程度の者を対象にして、油彩による、より幅広い表現力を修得するための技法を学習した。

(5) 版画入門講座

期 日 昭和58年 8月 8日・9日・10日・11日・12日・13日・14日

講 師 日本版画協会理事 深沢幸雄氏

参加者数 27名

内 容 銅版画の制作を通して、材料や用具、エッチング、ドライポイントなどの各技法、刷りの方法等、基礎的な内容を学習した。

(6) 彫塑入門講座

期 日 昭和58年11月 5日・6日・12日・13日、12月 2日・3日・4日

講 師 新制作協会会員 青木三四郎氏

参加者数 20名

内 容 小動物をモチーフにして、粘土による肉付けや石膏取りの方法等、彫塑の基礎的な内容を学習した。

(7) 陶芸入門講座

期 日 第1期 昭和58年 6月21日・22日・23日・24日、7月14日・21日

第2期 昭和58年10月25日・26日・27日・28日、11月24日、12月 1日

講 師 第1期 県美術会会員 保田勝久氏

第2期 陶芸家 羽二生隆宏氏

参加者 各期30名

内 容 コーヒーカップ、まっ茶茶わん、花びん等の制作を通して、釉薬などの材料や、ひもづくり、板づくりなど、陶芸の基礎的な技法について学習した。

(8) 七宝焼入門講座

期 日 第1期 昭和58年10月 2日・3日

第2期 昭和59年 1月28日・29日

講 師 第1期・第2期とも

千葉大学教授 長南光男氏

参加者数 各期30名

内 容 ペン皿、ブローチ、ペンダント等、身のまわりの装飾品の制作を通して、七宝焼の材料や基礎的な技法について学習した。

(9) 書芸入門講座

期 日 昭和58年11月 1日・2日・10日・11日・29日・30日

講 師 県美術会常任理事 福田襄州氏

参加者数 30名

内 容 書の歴史や、漢字、かなの楷書、行書などの練習を通して、書の基礎的な学習をした。

(10) 書芸研修講座

期 日 第1期 昭和58年 7月 6日・7日・13日・14日

第2期 昭和59年 2月21日・22日

講 師 第1期・第2期とも

県美術会常任理事 浅見錦龍氏

参加者数 各期30名

内 容 書芸入門講座を修了したもの、または同程度のものを対象にして、主に条幅の書き方を中心に、入門講座よりやや高い内容を学習した。

(11) てん刻入門講座

期 日 第1期 昭和58年8月25日・26日

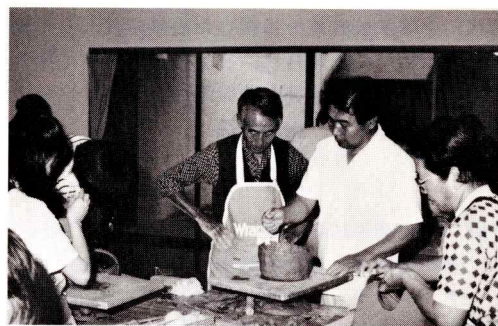
第2期 昭和58年12月10日・11日

講 師 第1期・第2期とも

県美術会会員 霊園鴻甫氏

参加者数 各期30名

内 容 自分の名前を印材に刻する制作を通して、印刀などの用具や材料の使い方、また、印稿、布字、刀、押印等の技法について基礎的な学習をした。



美術を語る会

美術普及事業の一環として、美術一般に関する問題をテーマに「美術を語る会」を定期的開催し、作家や作品について理解を深めた。なお、第1回、第3回、第4回は「千葉県放送セミナー」と同時開催した。

第1回 昭和58年6月18日

話題提供者 美術評論家 田中 稯氏

テ — マ ピカソ・人と芸術

NHK教育テレビ「日曜美術館」のビデオを視聴しながら、ピカソの人と芸術について語り合った。話題提供者の田中稯氏より、東京国立近代美術館で開かれた「ピカソ展」の展示作品を中心に、「青の時代」「ローズの時代」「キュビズムの時代」「古典主義の時代」等、ピカソ芸術の変貌とその時代的背景やピカソと周囲の人々とのかわり等について話され、質問や意見も活発に出された。

第2回 昭和58年7月10日

話題提供者 県美術会会長 浅見喜舟氏

テ — マ 書というもの

企画展「浅見喜舟展」にともない、話題提供者に浅見喜舟氏を招いて行われた。氏は、教育を志すようになった経緯から、小学校准、正教員としての群馬の新町時代、中等学校教員を目指した前橋時代、日本画に打ち込んだ新潟の高田時代、そして、書一筋で生きようと決心した千葉時代等の苦労話などをエピソードをまじえながら話され、出品作品についていろいろ解説された。

第3回 昭和58年10月1日

話題提供者 美術評論家 田中 稯氏

テ — マ 渡仏した画家たち

特別展「日本の洋画とフランス」にともない、明治・大正・昭和の初期に渡仏した画家たちに焦点を当てて、田中稯氏より話題提供された。特に、藤田嗣治をはじ

め、フランスに渡り、フランスで高い評価を受けた画家たちは、日本人でなければ描けない絵を描いたから評価されたのであり、日本洋画の原点をもう一度考える必要があるという。また、当日は、梅原龍三郎のビデオも視聴した。

第4回 昭和58年12月10日

話題提供者 東京芸術大学教育資料編さん室

村田哲朗氏

テ — マ 竹久夢二

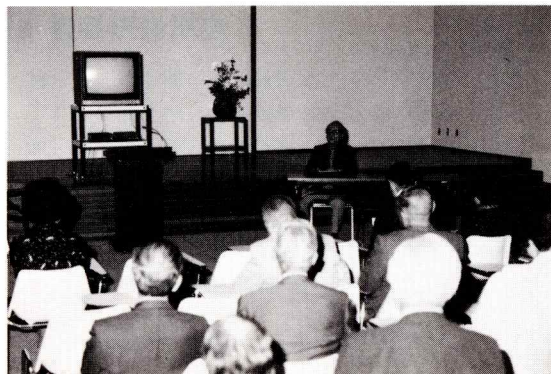
NHK教育テレビ「日曜美術館」のビデオを視聴しながら竹久夢二について語り合った。竹久夢二の生誕百年を控え、出身地の岡山では夢二をしのぶさまざまな催しが行われたが、それらのビデオを見ながら、夢二の再評価を試みた。特に、村田氏からは詩集や広告などの多くの資料をもとに話題提供され、夢二とたまきやお葉とのエピソードなどもまじえて話された。

第5回 昭和59年2月4日

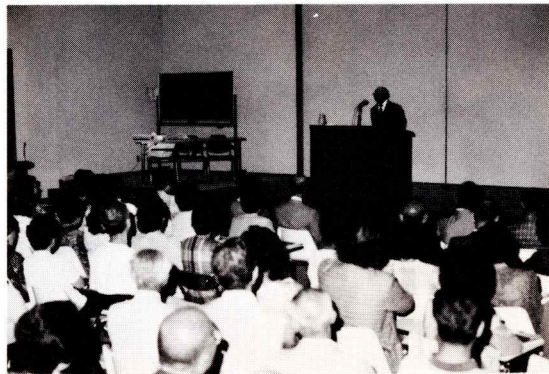
話題提供者 本館館長 高橋在久

テ — マ 浅井忠を追って10年

本館開設以来、一貫して地域に根ざした経営を目標にし、重点のひとつとして、日本近代洋画の先駆者浅井忠を軸に、資料の調査研究と作品の収集公開に努力してきたこれまでをふりかえって、特に、浅井が学んだフランスを中心に、数度にわたる踏査から資料をもとに浅井の足跡について話題提供した。



第2回



第5回

第7回 美術館夏季大学

美術館普及事業の一環として、美術に親しみながら、美術に関する知識や理解を深めるとともに、その魅力に触れることができる美術館夏季大学を開催してきたが、本年は、作家の方にそれぞれ芸術観を語っていただき、併せて、わが国の近・現代洋画史の流れに焦点をあてて開催した。

期 日 昭和58年 7 月29日・30日
参加者数 132名

日	時	講 師	課 題	内 容	日	時	講 師	課 題	内 容
7 月 29 日	午 前	田中 穰 (美術評論家)	日本洋画 の原点を めぐって	1. 大正から昭和前期の 前衛東郷青児がとり こんでいた竹久夢二 2. 1920年代のエコール・ ド・パリを制した藤 田嗣治が意図した新 浮世絵 3. 現代日本洋画を代表 した梅原龍三郎のル ノワール以前の師 4. 浅井忠記念賞の持つ 今日の意味	7 月 30 日	午 前	岩崎巴人 (日本画 家)	日本画と 私	1. 忘れられた道 2. 伝統に根ざして 3. 筆と墨
	午 後	長谷川昂 (彫刻家)	彫刻と私	1. 自然人の自覚 2. 愛の根源は大自然の 心 3. “線”は心の軌跡 4. 彫刻の本質的なもの は構造にあるがその 構造をコントロール するのは“線” 5. 創造は自然の心にか なうところから始ま る 6. 私にとって、彫刻と は自然と人生を“の み”に解釈		午 後	植村鷹千 代 (美術評 論家)	現代洋画 の動向	1. ヨーロッパからの影 響 ●戦前 ●戦後 2. 日本の伝統への反省 ●日本画・洋画・書 等の合流 3. 新しい創造への時代



見 学 会

友の会と共催で行い、美術作品や文化財を訪ねながら、同好の親睦を深めた。

佐倉歴博と風土記の丘を訪ねて

期 日 昭和58年 6 月23日

参加者数 48名

今回の美術鑑賞の旅は、佐倉市の国立歴史民俗博物館と県立房総風土記の丘を訪ねた。午前中あいにくの雨で、昼食もバスの中でとるといったありさまであったが、風土記の丘に着く頃には雨もすっかり上がり、館内での解説を聞いてから、会員は美しい緑の中をそれぞれ散策し、楽しい一日を過ごした。



美ヶ原高原・北澤・玉堂の三美術館を訪ねて

期 日 昭和58年10月3日～4日（1泊2日）

参加者数 44名

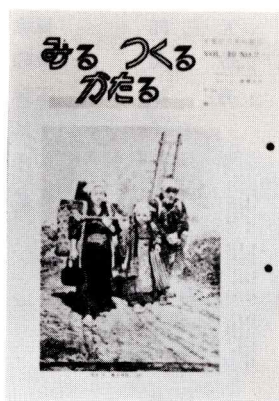
秋の一泊旅行は、2日間とも好天に恵まれ、第1日目の美ヶ原高原美術館は海拔2,000mの長野県美ヶ原高原にあって、10月ともなるとさすがに肌寒かったが、野外彫刻と雄大な展望はすばらしかった。第2日目は、諏訪湖のほとりに5月開館したばかりの北澤美術館でガラス工芸と日本画を鑑賞し、最後は、多摩川の溪流に面した玉堂美術館を見学し、2日間の鑑賞の旅を終えた。

VOL.10 No.1 (58.7.20発行 6頁)

- 目次
- 浅見喜舟展——書芸70年の歩み——
 - 常設収蔵作品展
 - 日本の洋画とフランス
 - 浅井忠記念賞展
 - 第7回美術館夏季大学
 - 千葉県放送セミナー
 - 美術館研究員決まる
 - ごあんない
 - 職員異動
 - 日誌抄

VOL.10 No.2 (59.2.1発行 6頁)

- 目次
- 特別展「浅井忠記念賞展」
 - 審査を終わって
 - 「浅井忠記念賞展」公募作品入選(入賞)一覽
 - ごあんない
 - トピックス
 - 日誌抄
 - 職員異動



友の会（葉美会）

(1) 運営方針

- ① みる・かたる・つくる美術活動に積極的な参加促進をはかる。
- ② 会員加入の促進と県民アトリエ事業への積極的な参加。
- ③ 組織の拡充と活動の充実をはかる

(2) 組織

人数 会員数 796名
名称 千葉県立美術館友の会

●千葉県立美術館友の会役員

職名	氏名	分担
顧問	浅見喜舟	
名誉会員	松戸節三	
"	市原正夫	
会長	鈴木民三	
副会長	江尻幹雄	親睦
"	高橋在久	
"	新城瑠璃	
事務局長	足立堯	
監事	小室守一	事業
"	三宅寿美子	事業
"	内山昭氏	
理事	安田博亮	
"	中島るり子	○広報
"	押尾禎一	親睦
"	平野元三郎	○親睦
"	大藤敬美	広報
"	石井秀雄	○事業
"	青木了	親睦
"	中村幸子	総務
"	大里功	
"	松本衛	
"	長倉忠勝	
"	鈴木豊志夫	
"	野沢弘子	
"	実藤充子	
"	平野馨	
"	高橋瑛	
"	久保木良	
"	加曽利和夫	
評議員	大高鐘蔵	
"	木内俊雄	
"	安達園子	
"	横沢正雄	

職名	氏名	分担
評議員	高橋喜一郎	
"	芳垣良一郎	
"	加藤信子	
"	西田葆	
"	藍野正和	
"	植木照	
"	広瀬慶子	
"	長谷川芳衛	
"	渡辺美智子	
"	米倉澄夫	
"	林美貴枝	
"	日暮幸子	
"	酒井千代子	
"	近藤愛子	
"	佐藤裕子	
"	今井忠昭	
"	今井博	
"	日色義忠	
"	落合芳枝	
"	須藤瑛子	
	○印 代表者	

(3) 事業

- ① 友の会だより“しおさい”の刊行、県民アトリエの各種実技講座への積極的な参加、美術鑑賞の旅、講演会、ボランティア解説会などを本館と共催及び後援で行った。

② 第8回葉美会展

会期 昭和59年2月7日～2月19日
展示点数 62点

葉美会展は、昭和51年10月に「友の会作品展」として、実技講座の作品を主としてはじめられた。葉美会という呼名は千葉県立美術館友の会の略称であることから、第3回より葉美会展と称した。友の会会員であれば、だれでも参加でき、会員がお互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより、創作の楽しみを分かち合う機会とした。なお、最終日には、千葉大学教授武内和夫氏より指導講評が行われた。

友の会だより

「しおさい」

B 5 各 1,300部

No.38 (58. 6 .18発行)

- 目次 ●「しおさい」に寄せて——新任のご挨拶と——
- 青葉につつまれた歴史の里
佐倉の歴博と城下町
 - 浅見喜舟展
 - 美術館の思い出
 - 友の会理事会、評議員会開く
 - 展覧会あんない

No.39 (58. 8 .15発行)

- 目次 ●美術館めぐり旅
- 人間の生き方を学ぶ
“歴博”を訪ねて
 - 教科書再発見
 - 展覧会あんない
 - 美術鑑賞の旅ご案内

No.40 (58.11. 3 発行)

- 目次 ●美ヶ原高原・北澤・玉堂の三美術館を訪ねて
- 彫刻と私
 - 展覧会あんない
 - 第8回葉美会展に出品を

No.41 (59. 1 .15発行)

- 目次 ●グレー村のピョー家
- ヨーロッパ駆け巡り
 - 太田山近況
 - 館蔵作品紹介
 - 展覧会あんない
 - 特別展「浅井忠記念賞展」

No.42 (59. 3 .30発行)

- 目次 ●第8回葉美会展開く
- 葉美会展から
 - 葉美会展を終えて
 - 自然の美からくる心の美しさ
 - 展覧会あんない
 - 新年度友の会会員募集



昭和58年度事業案内

月		み	る	か	た	る	つ	く	る
4	4 . 1	常設収蔵作品展							
		自然保護写真コンクール入賞作品展	(4/5～4/10)	浅井忠研究会					
		第20回全日本総合書道大展覧会	(4/12～4/17)		(4月)				
		武蔵野美術大学校友会千葉支部展	(4/12～4/17)						
5		現代書家1150人展	(4/26～5/1)						
		千葉等迦会展	(5/3～5/8)						
		千葉新協展	(5/3～5/15)						
		第9回歩会彫刻展	(5/3～5/15)						
		第7回墨の県展	(5/10～5/15)						
		第28回二科千葉支部展	(5/17～5/22)						
		二紀会千葉支部展	(5/17～5/22)						
		第10回千虹会日本画展	(5/24～6/5)						
		第14回表美展	(5/24～5/29)						
		千葉ーミシガン交換美術展	(5/24～5/29)						
		第6回一陽会千葉支部展	(5/31～6/5)						
		第9回猊展	(5/31～6/5)						
6		第30回千葉県書道協会展	(6/7～6/12)	美術を語る会(1)		洋画入門(1)			
		第4回千葉全展	(6/7～6/12)		(6/18)		(6月～7月)		
		千葉県立佐倉高等学校美術部30年展	(6/14～6/26)	浅井忠研究会		陶芸入門(1)			
		第3回千葉美術工芸展	(6/14～6/26)		(6月)		(6月～7月)		
		千葉市アマチュア美術クラブ作品展覧会	(6/14～6/19)			日本画入門(1)			
		第6回精鋭展	(6/21～7/3)				(6月～7月)		
		習美会初夏展	(6/28～7/3)						
		教育美術研究会展	(6/28～7/3)						
7	7 . 1	房総の美術家シリーズ(13)		美術を語る会(2)		書芸研修(1)			
		浅見喜舟展			(7/10)		(7月)		
8	7 . 28	第4回日本扇面展&青板展	(7/5～7/17)	美術館夏季大学		デッサン入門(1)			
		第15回千葉市水墨画同好会連合会展	(7/19～7/31)		(7/29～7/30)		(7月)		
		日中書道展	(8/2～8/7)	浅井忠研究会		版画入門(8月)			
		千葉サンケイ現代洋画展	(8/2～8/14)		(8月)	デッサン入門(2)			
		第12回写真千葉県展	(8/9～8/21)				(8月)		
		第11回千葉市教職員美術展	(8/16～8/28)			てん刻入門(1)			
		新世紀美術協会千葉支部展	(8/16～8/21)				(8月)		
		いてふ会彫刻展	(8/16～8/28)			洋画研修(2)			
		子供と教師の作品展	(8/23～8/28)				(7月～8月)		
		日本春秋書院千葉県書道連盟展	(8/23～8/28)						
		静雅書道会小中学部千葉地区展	(8/30～9/4)						
		龍峽書道会千葉県人展	(8/30～9/4)						
9	8 . 28	刻字千葉展	(8/30～9/4)						
		第16回千葉県高等学校合同写真展	(8/30～9/4)						
		9 . 3	特別展日本の洋画とフランス						
			第23回白扇書道会展	(9/6～9/11)	美術講演会		デッサン入門(3)		
			ファンシー洋画展	(9/13～9/18)		(9/18)		(9月)	
			文化書道千葉県連合会公募展	(9/13～9/18)			洋画研修(3)		
		第13回新構造千葉支部展	(9/13～9/18)				(9月～10月)		
		千葉83展	(9/20～9/25)			洋画入門(2)			
第33回千葉デザイン展	(9/27～10/2)				(9月～10月)				
	9 . 20	第7回千葉県移動美術館(八街町中央公民館)							
		第30回千葉県勤労者美術展	(9/27～10/2)						
		二科会写真部第3回千葉支部展	(9/27～10/2)						

月	みる	かたる	つくる
10	第26回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展 (10/4～10/12)	美術を語る会(3) (10/1)	七宝焼入門(1) (10月)
	10.5		
	10.8 第7回千葉県移動美術館(四街道市立旭公民館)	浅井忠研究会 (10月)	日本画入門(2) (10月～11月)
	10.12 第35回千葉県美術展覧会 (10/22～11/13)		陶芸入門(2) (10月～12月)
11	10.23		書芸入門 (10月～)
	千葉県高等学校総合芸術祭(書道・美術・工芸) (11/17～11/27)		洋画研修(4) (11月)
	芸術祭参加写真展 (11/17～11/27)		彫塑入門 (11月～12月)
	第28回こども県展 (11/29～12/11)		てん刻入門(2) (11月)
12	12.2 常設収蔵作品展	浅井忠研究会 (12月)	
	第6回千葉展 (12/13～12/25)	美術を語る会(4) (12/10)	
	12.25		
1	登龍社・宮坂会書初展 (1/5～1/8)	美術講演会 (1/22)	七宝焼入門(2) (1月)
	千葉県大学連盟展 (1/5～1/8)		
	今日の美術を考える会「あ・はれ」展 (1/10～1/22)		
	1.14 特別展浅井忠記念賞展 (1/24～1/29)		
	現代書道50人展他 (1/24～1/29)		
	群鷗会書人展 (1/31～2/5)		
	親子絵画展 (1/31～2/5)		
	第36回千葉県小中高書初展 (1/31～2/5)		
2	第18回千葉大学学生書道展 (2/7～2/12)	浅井忠研究会 (2月)	書芸研修(2) (2月)
	千葉大学教育学部美術科卒業制作展 (2/7～2/12)		
	第8回葉美会展 (2/7～2/19)	美術を語る会(5) (2/4)	
	子ども造形展 (2/14～2/19)		
	第9回千葉県民写真展 (2/14～2/26)		
	雁鴻会展 (2/21～2/26)		
	幕張北高校書道コース卒業制作展 (2/21～2/26)		
	2.22 千葉市民美術展覧会 (2/28～3/18)		
3	第31回書星教育部展 (3/20～3/25)		
	第7回唱和会書展 (3/27～4/1)		
	弥生書道展 (3/27～4/1)		
	秋耕展 (3/27～4/1)		
	3.20 常設収蔵作品展		

利用状況

昭和58年度入館者一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						備 考		
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生				
					人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数			
4	26	5,016	197	1,169	154	3	388		336	6	7,260		
5	26	9,649	554	2,732	239	8	78	1	423	6	13,675		
6	26	6,941	471	1,095	473	13	94	2	569	5	9,643		
7	27	8,216	445	1,975	354	9	0	0	0	0	10,990		
8	26	7,265	507	2,230	56	2	0	0	138	3	10,196		
9	26	10,079	1,278	2,205	274	10	25	1	171	1	14,032	特別展 日本の洋 画とフラ ンクス	
10	18	17,407	685	8,717	275	6	494	3	1,999	19	29,577		
11	24	14,425	1,355	2,686	743	19	604	6	2,356	16	22,169		
12	22	7,736	159	4,126	382	12	0	0	653	9	13,056		
1	23	6,917	335	697	102	4	0	0	190	1	8,241	特別展 浅井忠記 念賞展	
2	25	11,569	980	1,066	174	6	0	0	1,434	9	15,223		
3	27	9,785	637	2,710	0	0	0	0	115	3	13,247		
計	296	115,005	7,603	31,408	3,226	92	1,683	14	8,384	78	167,309		
累計	2,714	1,354,305	開館以来										

地域別入館者状況

種別 月	開館 日数	県内		県外		その他 外国(人)
		千葉市(人)	その他の県内(人)	東京都(人)	その他の県外(人)	
4	26	3,878	3,013	206	162	1
5	26	7,325	5,649	502	194	5
6	26	4,686	4,622	241	91	3
7	27	5,754	4,762	302	170	2
8	26	5,309	4,450	187	238	12
9	26	7,952	5,587	223	270	0
10	18	23,423	5,739	222	193	0
11	24	11,557	10,270	259	78	5
12	22	4,208	8,632	102	104	10
1	23	4,667	3,292	171	109	2
2	25	9,280	5,138	286	517	2
3	27	8,452	4,164	480	140	11
計	296	96,491	65,318	3,181	2,266	53
累計	2,714	161,809		5,447		53

日誌抄

- | | |
|---|--|
| <p>4月1日 辞令交付、離着任式
13 県立美術館博物館長会議
30 浅井忠研究会</p> <p>5月16日 美術館友の会総会
17 県博物館協会役員会
28 本年度実技講座始まる（洋画研修講座）</p> <p>6月18日 第1回美術を語る会・千葉県放送セミナー
23 友の会美術鑑賞の旅
23 横浜市役所より来館
25 浅井忠研究会</p> <p>7月1日 浅見喜舟展始まる（7月28日まで）
7 美術館資料審査委員会
10 第2回美術を語る会
22 美術館協議会
25 博物館実習始まる（7名、30日まで）
29 美術館夏季大学（30日まで）</p> <p>8月3日 県美術館協会編集委員会
4 出納局会計検査
27 浅井忠研究会</p> <p>9月3日 特別展「日本の洋画とフランス」始まる（10月12日まで）
18 美術講演会 講師・三木多聞氏
20 千葉県移動美術館（八街町中央公民館、10月5日まで）</p> <p>10月1日 第3回美術を語る会・千葉県放送セミナー・浅井忠研究会
8 千葉県移動美術館（四街道市、10月23日まで）</p> | <p>10月11日 第1回美術館研究員会議
12 NHK文化センター・日本博物館協会より来館</p> <p>11月11日 美術館協議会
12 県展35周年・美術館10周年記念碑除幕式
25 県博物館協会編集委員会
28 特別展「浅井忠記念賞展」公募作品搬入（12月5日まで）
30 県博物館関係職員研修会</p> <p>12月9日 特別展「浅井忠記念賞展」公募作品審査
10 第4回美術を語る会・千葉県放送セミナー
14 展示室利用に伴う調整会議
15 特別展「浅井忠記念賞展」入選者発表
19 友の会理事会
26 年末・年始休館（1月4日まで）</p> <p>1月14日 特別展「浅井忠記念賞展」始まる（2月22日まで）
浅井忠記念賞贈呈式
22 美術講演会 講師・芥川喜好氏
26 美術館協議会</p> <p>2月2日 美術館資料審査委員会
4 第5回美術を語る会・浅井忠研究会
22 書芸研修講座終る。本年度全実技講座終了。
22 第2回美術館研究員会議
24 県博物館協会編集委員会</p> <p>3月3日 群馬県教育委員会より来館
16 八王子資料館より来館
19 美術館協議会</p> |
|---|--|

関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

目 的

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

（入館の制限）

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者は、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 てい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。（禁止行為）

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、

墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることができる。

（委 任）

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣 旨）

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は別表第一に掲げるとおりとする。

（中 略）

別表第一抜粋

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入場料	特 別 展 覧 会	1 人 1 回 に つ き	500円 以内

3. 展示室使用料

昭和56年4月1日千葉県教育委員会指令第116号

1. 千葉県立美術館展示室等の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項に基づき減免することとし、当分の間次表のとりの額とする。

区分	室名	面積	使用料 (午前9時から午後5時まで)	
			観覧料無料、 物品を販売し ない場合(減 免率3分の2)	観覧料有料又 は物品を販売 する場合(減 免率3分の1)
展示棟	第一展示室	438㎡	5,500円	11,000円
	第二展示室	400㎡	5,000円	10,000円
	第三展示室	469㎡	6,000円	12,000円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,500円	15,000円
	全展示室	3,431㎡	43,000円	86,000円
県アトリエ棟	講堂	259㎡	4,500円	9,000円
	研修室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし、県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし、県教育委員会が特に教育的、文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

2. 千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

●千葉県立美術館友の会会則

(名称)

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。(略称、葉美会)
(事務所)

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

(目的)

第3条 本会は、千葉県立美術館(以下「館」という。)の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

(会員)

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

- ① 館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
- ② 美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
- ③ 本会発行の図録等の配布及び割引購入
- ④ 本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。

(会員の加入・退会)

第6条 本会に加入する場合は申込書に入会金(500円)を添えて事務局に提出し、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

(役員)

第7条 本会に次の役員をおく。

会長1名 副会長3名(ただし内1名は美術館長がたる)
理事若干名 事務局長1名 監事3名 評議員若干名

1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は防げない。

(役員等の任務)

第8条 本会の役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

3. 理事は会の運営にあたる。

4. 事務局長は会務を処理する。

5. 監事は本会会計の監査をする。

(顧問・名誉会員)

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

(支部)

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合支部をおく。

(評議員会)

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

(会費)

第12条 本会の普通会員は毎年度当初に年額1500円の会費を納入する。

(経費)

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

(職員)

第15条 本会の事務職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

(付則)

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

●昭和51年5月29日一部改正 ●昭和52年4月21日一部改正

●昭和53年4月22日一部改正 ●昭和54年4月28日一部改正

●昭和56年4月28日一部改正

昭和59年度展覧会事業計画

常設展

常設 収蔵作品展

会期 4月1日(日)～8月26日(日)
11月30日(金)～1月13日(日)
3月7日(木)～3月31日(日)

内容 本館収蔵作品を日本近代美術の流れに沿って展示するほか、収蔵作家の顕彰をはかりながら、特に、椿貞雄、原勝郎にスポットを当てて紹介する。

特別展

ミレー・コロー・クールベ展

会期 9月1日(土)～10月10日(木)

内容 世界の近代絵画をリードしたミレー、コロー、クールベを中心とするバルビゾン派の画家たちの作品を展示し、浅井忠絵画の原風景を再発見するとともに、バルビゾン派の多彩な活動ぶりを展観する。

速水御舟とその周辺

会期 1月19日(土)～2月27日(木)

内容 近代日本画の発展に大きな足跡を残して夭折した写実と幻想の天才画家速水御舟の果たした役割を大正・昭和を中心とした近代日本画の流れの中に位置づけ、御舟と関係の深い周辺作家の作品を併せ展覧する。

昭和59年度職員

館長	平野 馨
副館長	糸賀 茂夫
庶務課	
主査	林 康高
副主査	忍 足正雄
主任主事	菅井 富美子
主事	一 杉 徹
主任運転手	篠原 恒雄
主任用務員	長 島 則子
学芸課	
課長	中 村 哲
普及室長	加曾利 和夫
主査	中 地 昭男

企画展

“房総の美術家シリーズ(14)”

都鳥英喜展

会期 4月27日(金)～5月20日(日)

内容 佐倉市出身、浅井忠の従弟にあたり、京都高等工芸学校教授、関西美術院教師などをつとめ、関西洋画壇の重鎮であった都鳥の作品を一堂にあつめ、その独自の世界を展観する。

カナダ・アルバータ州現代美術展

会期 6月19日(火)～7月8日(日)

内容 カナダ・アルバータ州芸術家協会が審査・選抜した作家達の作品を紹介する。

第8回 千葉県移動美術館

会期 9月12日(水)～9月30日(日)

(佐原市中央公民館)

10月3日(水)～10月21日(日)

(富里中央公民館)

内容 本館収蔵作品の鑑賞の機会を広く県民に拡大するとともに、本館を紹介し、地域文化の振興に寄与するため、県内2か所の会場で美術展覧会を行う。

第1回 現代日本具象彫刻展

会期 2月2日(土)～2月24日(日)

内容 500万県民を記念して青葉の森公園の彫刻広場に設置する作品を全国公募し、その受賞作品及び入選作品を展示公開する。

主査	鈴木 喜久夫
学芸員	森田 保司
学芸員	米田 耕司
学芸員	大久保 守司
学芸員	藤川 正司
学芸員	前川 公秀
主事	武内 喜美子
学芸員	金田 雅成
学芸員	小泉 幸代
学芸員	内野 泉
非常勤嘱託	足立 堯

利 用 案 内

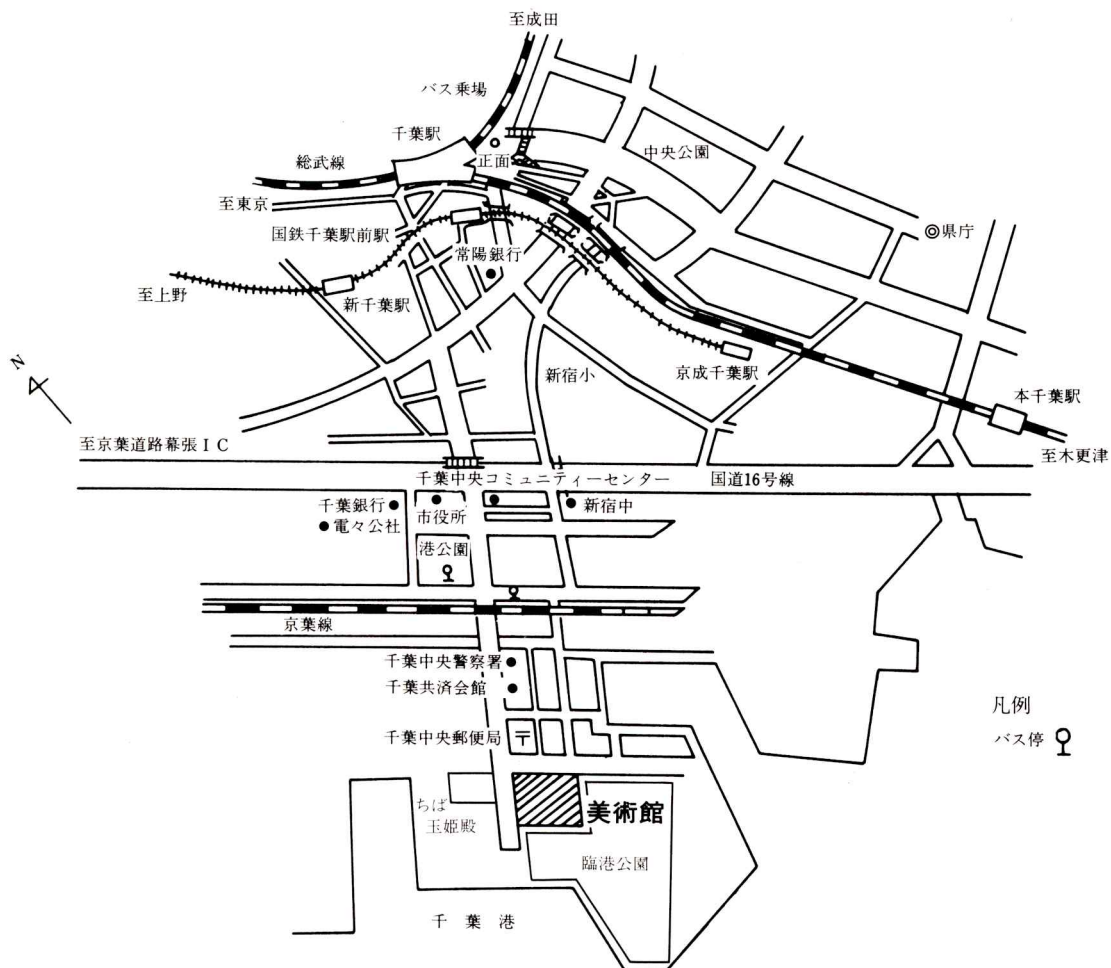
- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休 館 日**
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日または、振替休日の場合は開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替等のため、必要があるとき。
- 入 場 料**
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧**
- ・団体で来館されるとき、あらかじめご連絡あれば作品等の解説をします。

交 通 案 内

国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊、京成、中央各バスで終点下車、徒歩約10分、⑦番「新港行」小湊、京成バスで中央署前下車、徒歩約6分

※日曜・祝日に限りそごうデパート前⑨番より美術館行きバスが運行されています。

案 内 図



みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報（昭和58年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472 (42) 8311

印刷 株式会社 弘報社印刷
